

英米文学特論ⅣA			単位数	2単位
授業コード	M2111	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	赤松 佳子			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	英米文学			
本授業の概要				
本授業では、17 世紀イギリスの詩人と呼ばれるジョン・ダンの作品を中心に、英詩を研究する。愛をテーマにしたダンの詩を取り上げ、永遠性を表す比喩表現に注目しながら形而上詩の系譜を辿る。また、同時代詩人や後世の詩人の作品との比較を通して、作品を精読・分析し、詩がどのように読まれ、批評されてきたかを考えていく。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	英語で書かれた韻文の読解力を培う。			知識・技能／思考・判断・表現力
2	英詩への批評眼を身に付け、自分の考えを論じることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	担当発表・意見交換（20%）			1／2
2	小レポート（20%）			1／2
3	学期末レポート（60%）			1／2
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1. I. 導入―詩人の生涯と主要作品、同時代文人たちの紹介				
事前学修	manabaに設定されているアンケートに答える。			2時間
事後学修	イギリス文学史の中でダンを祖とする形而上詩人がどのように評されているかを、箇条書きにしてまとめておく。			2時間
2. II. 恋愛詩 『唄とソネット』（Songs and Sonnets）の作品講読 ①「唄」（“Song”）2 種				
事前学修	語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 詩の朗読を聞いて、音の特徴を掴む。 “songs” と“sonnets” との違いを調べておく。			2時間
事後学修	同じ「唄」と題された2作品が相反する愛の主題をうたっていることの意味を考え、意見をまとめておく。			2時間
3. 『唄とソネット』 の作品講読 ② 「おはよう」（“The Good-Morrow”）				
事前学修	語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 詩の朗読を聞いて、音の特徴を掴む。 〈後朝（きぬぎぬ）の歌（aubade / dawn songs）〉の特徴を調べておく。			2時間
事後学修	「おはよう」という詩が〈後朝の歌〉の伝統からいかに逸脱しているのかをまとめておく。			2時間
4. 『唄とソネット』 の作品講読 ③「日の出」（“The Sun Rising”）				
事前学修	語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 詩の朗読を聞いて、音の特徴を掴む。 太陽のイメージおよび象徴を『イメージ・シンボル事典』で調べておく。			2時間
事後学修	「日の出」という詩が〈後朝の歌〉の伝統を意識し、かつ超越している点をまとめる。			2時間

5. 『唄とソネット』 の作品講読 ④「聖列加入」(“The Canonization”)		
事前学修	語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 詩の朗読を聞いて、音の特徴を掴む。 「聖列加入・列聖」の本来の意味を調べておく。	2時間
事後学修	＜奇想 (conceit)＞と呼ばれる比喩表現が効果的に使用されていることをまとめておく。	2時間
6. 『唄とソネット』 の作品講読 ⑤ 「記念日」 (“The Anniversary”)		
事前学修	語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 詩の朗読を聞いて、音の特徴を掴む。 「記念日」を祝うことの意味を考える。	2時間
事後学修	相思相愛の恋人たちが年月を積み重ねることの意義と＜奇想＞との関わりとをまとめる。	2時間
7. 『唄とソネット』 の作品講読 ⑥ 「別れ（嘆くのを禁じて）」 (“A Valediction: Forbidding Mourning”)		
事前学修	語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 詩の朗読を聞いて、音の特徴を掴む。 “valediction”の意味と使い方を調べておく。	2時間
事後学修	傑作として名高い本詩における、永遠を意味する＜奇想＞の効果をまとめる。	2時間
8. III. 宗教詩 ① 連作作品講読 『冠』(La Corona)		
事前学修	語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 詩の朗読を聞いて、音の特徴を掴む。 ソネット連作の歴史を調べておく。	2時間
事後学修	「冠」の形を意識したソネット連作が、キリストへの敬虔な愛永遠性永遠性を示すのにいかに効果的であるかをまとめておく。	2時間
9. ②『聖なるソネット（神に捧げる瞑想）』の作品講読 前期		
事前学修	語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 詩を音読して、音の効果の技巧を掴む。	2時間
事後学修	初期の作品群の配列と魂の永遠性獲得の問題とを考える。	2時間
10. ③『聖なるソネット（神に捧げる瞑想）』の作品講読 中期		
事前学修	語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 詩を音読して、音の効果の技巧を掴む。	2時間
事後学修	中期の作品群の配列と魂の永遠性獲得の問題とを考える。	2時間
11. 『聖なるソネット（神に捧げる瞑想）』の作品講読 後期		
事前学修	語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 詩を音読して、音の効果の技巧を掴む。	2時間
事後学修	後期の作品群の配列と魂の永遠性獲得の問題とを考える。	2時間
12. ⑤「キリストに捧げる賛歌」(“A Hymn to Christ, at the Author’s Last Going into Germany”)の作品講読		
事前学修	語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 詩を音読して、音の効果の技巧を掴む。 本詩と詩人の個人的な経験との関わりを調べておく。	2時間
事後学修	宗教人としてのダンが到達した心の境地をまとめる。	2時間
13. ⑥「病床にあって神、わが神に捧げる賛歌」(“A Hymn to God, My God, in My Sickness”)の作品講読		
事前学修	語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 詩を音読して、音の効果の技巧を掴む。 “hymn”という形式と内容との妥当性を考える。 本詩と詩人の個人的な経験との関わりを調べておく。	2時間
事後学修	病気の苦しみにも宗教的な意味を見出すことの意味をまとめる。	2時間
14. 評論を読む ①（エリザベス朝時代の世界観、相思相愛の恋人たちが獲得する永遠）		
事前学修	前回の授業で配付された論文のプリントを解読する。	2時間
事後学修	形而上詩が描く世俗の愛の永遠性をまとめる。	2時間
15. 評論を読む ② 宗教詩における世俗的な愛の譬えが持つ意味と永遠性との関わり（シェイクスピアのソネットその他との比較から）		
事前学修	第1期の学習を振り返り、疑問点を質問できるようにしておく。	2時間
事後学修	ダンという詩人の永遠性を獲得するストラテジーをまとめる。	2時間

試験等
レポート提出
試験のフィードバックの方法
レポートに評価を書いて返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> John Donne, The Complete English Poems (Penguin) 他（資料配付）
<参考書> * 授業で紹介する。
オフィスアワー
随時、質問をメール等で受け付ける。
連絡先
akamatsu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する大学院生は、文学批評の知識を深めることに留意して、研究対象への応用力を磨くこと。

英米文学特論IVB				単位数	2単位
授業コード	M2116	科目ナンバリング		開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	赤松 佳子				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英米文学				
本授業の概要					
本授業では、19 世紀アメリカの女性詩人エミリ・ディキンソンの形而上的な作品を中心に、英詩を研究する。イギリス形而上詩人の作品との比較を通して、作品を精読・分析し、詩がどのように読まれ、批評されてきたかを考えていく。なかでも、南北戦争時における、永遠性を希求するイメージアリーを駆使したディキンソンの詩を取り上げ、現代詩に通じる技法を読み解く。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	英語で書かれた韻文の読解力を培う。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	英詩への批評眼を身に付け、自分の考えを論じることができる。			思考・判断・表現力／主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	担当発表・意見交換（20%）			1／2／3	
2	小レポート（20%）			1／2	
3	学期末レポート（60%）			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. I. 導入―詩人の生涯と主要作品、同時代文人たちの紹介					
事前学修	manabaに設定されているアンケートに答える。			2時間	
事後学修	ディキンソンは生前にほとんどの詩作を発表しなかったので、その作品の読解や考察に向かうときの方法をまとめ、次回からの指針とする。			2時間	
2. 自然詩講読 ①（1861 年創作の作品）					
事前学修	1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 2. 詩の朗読を聞いたり、自ら音読したりして、音の技巧的特徴を掴む。			2時間	
事後学修	1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。 2. 詩の技巧をノートに書き出す。			2時間	
3. 自然詩講読 ②（1662-63 年創作の作品）					
事前学修	1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 2. 詩の朗読を聞いたり、自ら音読したりして、音の技巧的特徴を掴む。 3. 1862-63年に多くの優れた詩が書かれたことを書き留めておく。			2時間	
事後学修	1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。 2. 詩の技巧をノートに書き出す。			2時間	
4. 自然詩講読 ③（1864-65 年創作の作品）					
事前学修	1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 2. 詩の朗読を聞いたり、自ら音読したりして、音の技巧的特徴を掴む。			2時間	
事後学修	1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。 2. 詩の技巧をノートに書き出す。			2時間	
5. 愛の詩講読 ①（1861 年創作の作品）					
事前学修	1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 2. 詩の朗読を聞いたり、自ら音読したりして、音の技巧的特徴を掴む。			2時間	
事後学修	1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。 2. 詩の技巧をノートに書き出す。			2時間	

6. 愛の詩講読 ②（1662-63 年創作の作品）		
事前学修	1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 2. 詩の朗読を聞いたり、自ら音読したりして、音の技巧的特徴を掴む。	2時間
事後学修	1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。 2. 詩の技巧をノートに書き出す。	2時間
7. 愛の詩講読 ③（1864-65 年創作の作品）		
事前学修	1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 2. 詩の朗読を聞いたり、自ら音読したりして、音の技巧的特徴を掴む。	2時間
事後学修	1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。 2. 詩の技巧をノートに書き出す。	2時間
8. 死を歌う詩 ①（1861 年創作の作品）		
事前学修	1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 2. 詩の朗読を聞いたり、自ら音読したりして、音の技巧的特徴を掴む。	2時間
事後学修	1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。 2. 詩の技巧をノートに書き出す。	2時間
9. 死を歌う詩 ②（1662 年創作の作品）		
事前学修	1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 2. 詩の朗読を聞いたり、自ら音読したりして、音の技巧的特徴を掴む。	2時間
事後学修	1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。 2. 詩の技巧をノートに書き出す。	2時間
10. 死を歌う詩 ③（1663 年創作の作品）		
事前学修	1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 2. 詩の朗読を聞いたり、自ら音読したりして、音の技巧的特徴を掴む。	2時間
事後学修	1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。 2. 詩の技巧をノートに書き出す。	2時間
11. 死を歌う詩 ④（1864-65 年創作の作品）		
事前学修	1. 語句の予習・詩の内容を把握する。日本語訳を試みるのが効果的である。 2. 詩の朗読を聞いたり、自ら音読したりして、音の技巧的特徴を掴む。	2時間
事後学修	1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。 2. 詩の技巧をノートに書き出す。	2時間
12. 書簡に見る詩の要素 ①（T・W・ヒギンズ宛ての前期の手紙）		
事前学修	文芸評論家ヒギンズに宛てた書簡における、病のイメージリーを読み解く。	2時間
事後学修	予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。	2時間
13. 書簡に見る詩の要素 ②（T・W・ヒギンズ宛ての後期の手紙）		
事前学修	文芸評論家ヒギンズに宛てた書簡における、豊かな詩的表現を読み解く。	2時間
事後学修	1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。 2. 書簡における詩の要素をノートに書き出す。	2時間
14. 評論を読む ① （ダンとディキンソン）		
事前学修	前回の授業で配付された資料を解読しておく。	2時間
事後学修	1. 予習の時点で不明瞭であり、授業で解決した問題を見直す。 2. 詩の技巧をノートに書き出す。	2時間
15. 評論を読む ② 南北戦争の時代を生きた詩人として、イマジスト詩人としてのディキンソン		
事前学修	配付された評論の資料を解読しておく。 第2期の授業を振り返って、疑問点を質問できるようにしておく。	2時間
事後学修	ディキンソンという女性詩人の永遠性獲得のストラテジーをまとめる。	2時間

試験等
16. レポート提出
試験のフィードバックの方法
レポートに評価を書いて返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> The Poems of Emily Dickinson, edited by R. W. Franklin 他（資料配付）
オフィスアワー
随時、メール等で質問を受け付ける。
連絡先
akamatsu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
本授業を履修する大学院生は、文学批評の知識を深めることに留意して、研究対象への応用力を磨くこと。

英米文学特論ⅠA		単位数		2単位	
授業コード	M2121	科目ナンバリング		開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	新野 緑				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英米文学				
本授業の概要					
イギリス19世紀初頭、摂政皇太子時代を代表する女性作家ジェイン・オースティンの『マンスフィールド・パーク』を精読する。伯父の准男爵サー・パートラムの館マンスフィールド・パークに引き取られた下級軍人の娘ファニー・プライスは、引っ込み思案で上流のパートラム家の華やかで豊かな生活になかなか馴染めない。しかし、一家の次男エドモンドに励まされて次第に一家の中でなくてはならない存在へと成長し、彼に密かな恋心を抱くようになる。そのファニーの恋のゆくへと成長の過程を、邸宅の改良熱や植民地との関係、地主階級における道德観の揺らぎといった当時の社会的文化的現実との関わりの中で考えてみたい。					
アクティブラーニングの実施内容					
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	ある程度の長さのテキストを原文で読みながら、自分なりに掘り下げるべき問題点を見出す力をつける。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	先行研究を批判的に読むことで、自身の解釈を深める力を育てる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	自分の考えを論理的かつ効果的に表現する力を養う。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業への積極的参加 20%			1/2/3	
2	発表 20%			1/2/3	
3	最終レポート60%			1/2/3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. Introduction：作家説明とオースティン研究の流れ					
事前学修	単語の細かいニュアンスや歴史的文化的背景が十分に把握できるように調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨むこと			2 時間	
事後学修	授業内容について復習し、作家や作品、批評史への知識を整理する。			2 時間	
2. Book I Ch1：結婚と階層					
事前学修	単語の細かいニュアンスや当時の社会階層に関する歴史的文化的背景を調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。			2 時間	
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や歴史的背景を確認する。			2 時間	
3. Ch2：女性と教育					
事前学修	単語の細かいニュアンスや女性の教育についての歴史的文化的背景を調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。			2 時間	
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や歴史的背景を確認する。			2 時間	
4. Ch3：荘園と植民地					
事前学修	単語の細かいニュアンスや当時の植民地に関する歴史的文化的背景を調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。			2 時間	
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や歴史的背景を確認する。			2 時間	
5. Ch4：都会と田舎					
事前学修	単語の細かいニュアンスや当時の都会と田舎の対立についての歴史的文化的背景を調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。			2 時間	
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や歴史的背景を確認する。			2 時間	

6. Ch5: 社交界		
事前学修	単語の細かいニュアンスや当時の社交についての歴史的文化的背景を調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や歴史的背景を確認する。	2 時間
7. Ch6: カントリーハウスの改良		
事前学修	単語の細かいニュアンスやカントリーハウスの改良に関する歴史的文化的背景を調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や歴史的背景を確認する。	2 時間
8. Ch7: 女性と乗馬		
事前学修	単語の細かいニュアンスや女性の乗馬に関する歴史的文化的背景を調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や歴史的背景を確認する。	2 時間
9. Ch9: 牧師という職業		
事前学修	単語の細かいニュアンスや牧師に関する歴史的文化的背景を調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や歴史的背景を確認する。	2 時間
10. Ch10: 危険		
事前学修	単語の細かいニュアンスや歴史的文化的背景が十分に把握できるように調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や歴史的背景を確認する。	2 時間
11. Ch 13: 演劇熱		
事前学修	単語の細かいニュアンスや歴史的文化的背景が十分に把握できるように調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や歴史的背景を確認する。	2 時間
12. Ch14: 『恋人たちの誓い』		
事前学修	単語の細かいニュアンスや『恋人たちの誓い』について調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や歴史的背景を確認する。	2 時間
13. Ch15: 配役の妙		
事前学修	単語の細かいニュアンスに加え、上演の配役の意義を調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や歴史的背景を確認する。	2 時間
14. Ch16: エドモンドの変化		
事前学修	単語の細かいニュアンスを調べ、エドモンドの変化の意味について、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や歴史的背景を確認する。	2 時間
15. Ch 17: 演劇の裏側		
事前学修	単語の細かいニュアンスを調べ、演劇の裏側で進行する登場人物の関係について、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨むこと	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や歴史的背景を確認する。	2 時間

試験等
1 6 週目に期末レポートを提出する
試験のフィードバックの方法
manabaや授業を通して適宜フィードバックを行う
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> Jane Austen, Mansfield Park. Edited by Claudia L. Johnson. Norton Critical Edition. W.W. Norton & Co Inc. 1998. ISBN: 978-0393967913（各自で授業開始までに購入のこと） これ以外の参考書については適宜教室で配布、あるいは指示する。
オフィスアワー
随時。授業終了後やメール等に対応する。対面を希望する場合は、事前にメールで連絡して予約してください。
連絡先
niino_midori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
原文の細かいニュアンスを捉え、独自の解釈が可能な様に、英英辞典などを用いながら十分に予習をして授業に臨んでほしい。 原文に記された事象の背後にある歴史的、文化的事実についても研究書を参照しながら理解を深めておくことが望ましい。 自分の意見や疑問点を積極的にクラスで発言してほしい。 授業で取り上げなかった箇所については各自で読んで、物語の展開を理解しておくこと。

英米文学特論IB		【単位数	2単位
授業コード	M2126	科目ナンバリング	開講年度学期2025年度第2期
担当者氏名	新野 緑		
時間割備考			
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）			
担当形態	単独		
研究分野（大学院）	英米文学		
本授業の概要			
イギリス19世紀初頭、摂政皇太子時代を代表する女性作家ジェイン・オースティンの『マンスフィールド・パーク』を精読する。伯父の准男爵サー・パートラムの館マンスフィールド・パークに引き取られたファニー・プライスは、引っ込み思案で上流のパートラム家の華やかで豊かな生活になかなか馴染めない。しかし、一家の次男エドモンドに励まされて次第に一家の中でなくてはならない存在へと成長し、彼に密かな恋心を抱くようになる。そのファニーの恋のゆくへと成長の過程を、邸宅の改良熱や植民地との関係、地主階級における道徳観の揺らぎといった当時の社会的文化的現実との関わりの中で考えてみたい。			
アクティブラーニングの実施内容			
到達目標		対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	ある程度の長さのテキストを原文で読みながら、自分なりに掘り下げるべき問題点を見出す力をつける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	先行研究を批判的に読むことで、自身の解釈を深める力を育てる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	自分の考えを論理的かつ効果的に表現する力を養う	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業への積極的参加 20%	1／2／3	
2	発表 20%	1／2／3	
3	最終レポート60%	1／2／3	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目			
実務経験の授業への活用方法			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1. Book II Ch1: サー・トマスの帰還と屋敷の秩序			
事前学修	単語の細かいニュアンスを調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間	
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を確認する。	2 時間	
2. Ch3: マライアの結婚			
事前学修	単語の細かいニュアンスを調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間	
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を確認する。	2 時間	
3. Ch4: 三角関係			
事前学修	単語の細かいニュアンスを調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間	
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を確認する。	2 時間	
4. Ch5 : 晩餐会			
事前学修	単語の細かいニュアンスを調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間	
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を確認する。	2 時間	
5. Ch6: 海軍と兄の訪問			
事前学修	単語の細かいニュアンスを調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間	
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を確認する。	2 時間	

6. Ch8: 舞踏会		
事前学修	単語の細かいニュアンスを調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を確認する。	2 時間
7. Ch9: 首飾り		
事前学修	単語の細かいニュアンスを調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を確認する。	2 時間
8. Ch12: 理想の女性		
事前学修	単語の細かいニュアンスを調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を確認する。	2 時間
9. Ch13: 板挟み		
事前学修	単語の細かいニュアンスを調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を確認する。	2 時間
10. Book III Ch1: 地位と心情		
事前学修	単語の細かいニュアンスを調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を確認する。	2 時間
11. Ch2: 人間は変われるか？		
事前学修	単語の細かいニュアンスを調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を確認する。	2 時間
12. Ch3: シェイクスピアの朗読		
事前学修	単語の細かいニュアンスを調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を確認する。	2 時間
13. Ch4: 人間の多面性		
事前学修	単語の細かいニュアンスを調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を確認する。	2 時間
14. Ch7, 8: ポーツマス		
事前学修	単語の細かいニュアンスを調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を確認する。	2 時間
15. Ch15: 駆け落ち		
事前学修	単語の細かいニュアンスを調べ、自分なりの解釈や疑問点を持って授業に臨む。	2 時間
事後学修	授業内容について復習し、授業で取り上げられた英語表現や内容を確認する。	2 時間

試験等
1 6 週目に期末レポートを提出する
試験のフィードバックの方法
授業やmanabaを通して適宜フィードバックを行う
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書>Jane Austen, Mansfield Park. Edited by Claudia L. Johnson. Norton Critical Edition. W.W. Norton & Co Inc. 1998. ISBN: 978-0393967913（ただし 1 期にすでに購入している場合は、新たに購入する必要はありません）
その他必要な参考書については授業中に適宜紹介、配布する。
オフィスアワー
随時。授業終了後やメール等で受け付ける。対面を希望する場合は、以下のアドレスに事前に連絡し、予約してください。
連絡先
niino_midori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
原文の細かいニュアンスを捉え、独自の解釈が可能な様に、英英辞典などを用いながら十分に予習をして授業に臨んでほしい。 自分の意見や疑問点を積極的にクラスで発言してほしい。 1 期の「イギリス文学特論Ia」で取り上げた部分については、第1回授業で説明するが、可能な限り 1 期のこの授業も履修していることが望ましい。 授業中に取り上げなかった箇所については各自で読んで、物語の展開を理解しておくこと。

英米文学特論IIIA			単位数	2単位
授業コード	M2131	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	松井 かや			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	英米文学			
本授業の概要				
20世紀の作家エリザベス・ボウエンの長編The Death of the Heart (1938) 前半を精読する。16歳で孤児となったポーシャは、異母兄トマスとその妻アンナとともに暮らし、年上のエディに恋をするが、彼女の日記がアンナの心を乱し、エディには裏切られ、彼女は居場所も心の拠り所も失っていく。作品のタイトルは「心の死」であるが、果たして心が死んでいるのは誰なのか。他にも様々な謎を内包するこの作品を丁寧に読み解きたい。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー (1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性)	
1	作品を批評的に読む視点を身につける。		知識・技能／思考・判断・表現力	
2	作品から注目すべきテーマを抽出し、それについて自分の主張を論理的に展開できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	難解で知られるこの作家の作品の精読を通して、英語力を増強する。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業準備 20%		1／2／3	
2	授業での意見発表 20%		1／2／3	
3	最終レポート60%		1／2／3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1. オリエンテーション、エリザベス・ボウエンについて				
事前学修	エリザベス・ボウエンについて調べる。			1時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。			1時間
2. Part 1 “The World” Chapter 1 リージェンツ・パーク				
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。			2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。			2時間
3. Part 1 Chapter 2 ウィンザーテラス				
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。			2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。			2時間
4. Part 1 Chapter 3 ブラット少佐				
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。			2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。			2時間
5. Part 1 Chapter 4 手紙				
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。			2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。			2時間

6. Part 1 Chapter 5 エディという存在		
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。	2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。	2時間
7. Part 1 Chapter 6 ポーシャとマチェット		
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。	2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。	2時間
8. Part 1 Chapter 7 ブラット少佐の訪問		
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。	2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。	2時間
9. Part 1 Chapter 8 イノセンス		
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。	2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。	2時間
10. Part 1 Chapter 9 日記		
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。	2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。	2時間
11. Part 2 “The Flesh” Chapter 1 シールのヘカムー家		
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。	2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。	2時間
12. Part 2 Chapter 2 もうひとつの家庭		
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。	2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。	2時間
13. Part 2 Chapter 3 手紙とパーティー		
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。	2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。	2時間
14. Part 2 Chapter 4 脅威		
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。	2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。	2時間
15. レポート提出		
事前学修	レポートを作成する。	4時間
事後学修	講義内容、授業で使用了資料を整理しておく。	1時間

英米文学特論III B				単位数	2単位
授業コード	M2136	科目ナンバリング		開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	松井 かや				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英米文学				
本授業の概要					
第1期に引き続き、20世紀の作家エリザベス・ボウエンの長編The Death of the Heart（1938）後半を精読する。16歳のポーシャが経験する複数の裏切り、彼女が築く人間関係、何度も描かれる彼女の「移動」など、様々な観点から作品全体を考察する。さらに、この作品の先行研究について調べた上で、その中から2つの批評を精読し、それらを踏まえてこの作品に関するレポートを作成する。					
アクティブラーニングの実施内容					
		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	作品を批評的に読む視点を身につける。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	作品から注目すべきテーマを抽出し、それについて自分の主張を論理的に展開できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	難解で知られるこの作家の作品の精読を通して、英語力を増強する。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業準備 20%			1／2／3	
2	授業での意見発表 20%			1／2／3	
3	最終レポート60%			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. The Death of the Heart 前半の振り返り					
事前学修	テキストや資料を見返しておく。			1時間	
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。			1時間	
2. Part 2 “The Flesh” Chapter 5 裏切り					
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。			2時間	
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。			2時間	
3. Part 2 Chapter 6 アンナの肖像画					
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。			2時間	
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。			2時間	
4. Part 2 Chapter 7 エディの言葉					
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。			2時間	
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。			2時間	
5. Part 2 Chapter 8 日記					
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。			2時間	
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。			2時間	

6. Part 3 “The Devil” Chapter 1 ロンドンに戻る		
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。	2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。	2時間
7. Part 3 Chapter 2 暴露		
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。	2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。	2時間
8. Part 3 Chapter 3 ポーシャとリリアン		
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。	2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。	2時間
9. Part 3 Chapter 4 エディの部屋		
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。	2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。	2時間
Part 3 Chapter 5 カラチホテル		
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。	2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。	2時間
11. Part 3 Chapter 6 マチエットの到着		
事前学修	テキストの指定範囲を精読し、気付いた点などをまとめる。	2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。	2時間
12. 評論を読む1 Hermione Lee, “The Death of the Heart” 前半		
事前学修	評論の指定範囲を精読する。	2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。	2時間
13. 評論を読む2 Hermione Lee, “The Death of the Heart” 後半		
事前学修	評論の指定範囲を精読する。	2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。	2時間
14. 評論を読む3 Mona Van Duyn, “A Reading of The Death of the Heart”		
事前学修	評論の指定範囲を精読する。	2時間
事後学修	授業を振り返り、疑問点などについてさらに検討・考察しておく。	2時間
15. レポート提出		
事前学修	レポートを作成する。	4時間
事後学修	講義内容、授業で使用了資料を整理しておく。	1時間

英米文学演習 A		単位数	2単位	
授業コード	M2141	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第 1 期
担当者氏名	新野 緑			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	英米文学			
本授業の概要				
イギリス文学を中心に、修士論文の課題の設定、受講生が選んだ作品やテーマに則した先行研究の洗い出し、さらに文献を批判的に読んで、自身の作品解釈と比較しつつ考察を深めていく方法を学ぶ。また、論文執筆に必要な様式についてのルールを踏まえて、先行研究を活用しつつ自身の考えを論理的に構成する方法を身につけ、修士論文を執筆する。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標		対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）		
1	1. イギリス文学について独自の視点で適切な課題を設定できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
2	2. 論文執筆に必要な様式や、論理的な論文構築のための方法を理解し、それを実践できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
3	3. 文学研究に関する様々なアプローチの方法を理解している。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
4	4. 必要な先行研究を的確に探し、それを批判的に評価できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
5				
成績評価の基準		対応する到達目標の番号		
1	授業の積極的参加 20%	1／2／3／4		
2	口頭発表 20%	1／2／3／4		
3	期末レポート60%	1／2／3／4		
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1. Introduction				
事前学修	修士論文で扱う作品やテーマを考え、それに関する文献のリサーチを行っておく。	3 時間		
事後学修	授業でのフィードバックを参考にして、以後のリサーチ計画を考える。	1 時間		
2. 卒業論文の振り返り				
事前学修	口頭発表の準備	2 時間		
事後学修	フィードバックを参考に、口頭発表のテクニックを理解すると同時に、修論のテーマの絞り込みに活かす。	2 時間		
3. 修士論文の執筆計画				
事前学修	修士論文の執筆計画を作成する。	2 時間		
事後学修	執筆計画の修正。	2 時間		
4. 論文のテーマ設定とthesis sentence				
事前学修	教科書の該当箇所を予習する。	2 時間		
事後学修	講義を参考に自分の修論のテーマとthesis sentence を作成する	2 時間		
5. 資料の収集と参考文献表の作成				
事前学修	教科書の該当部分を読み、図書館でのリサーチを始める。	2 時間		
事後学修	講義の内容を参考に、修論に関する資料のリサーチと参考文献表の作成を行う。	2 時間		

6. 資料の活用とそのルール（注の付け方）		
事前学修	教科書の該当部分を読み、不明点などを考える	2 時間
事後学修	講義の内容を整理し、活用できるようにする。	2 時間
7. 引用のルール		
事前学修	教科書の該当部分を読み、不明点などを考える。	2 時間
事後学修	講義の内容を整理し、論文作成に活用できるようにする。	2 時間
8. 参考文献の書き方		
事前学修	教科書の該当部分を読み、不明点などを考える。	2 時間
事後学修	講義の内容を踏まえて、自身の論文の参考文献表の作成に活用する。	2 時間
9. アウトラインの作成方法		
事前学修	教科書の該当部分を読み、不明点などを考える。	2 時間
事後学修	講義の内容を踏まえ、自身の論文のアウトラインを作成する。	2 時間
10. 1980年以前の批評		
事前学修	修論で取り扱う作家や作品に関して、概説書を参考にしながら1980年以降の批評の流れを理解する。	2 時間
事後学修	講義の内容を整理し、自身の修論作成に活用する。	2 時間
11. 1980年以後の批評		
事前学修	修論で扱う作家の作品について、概説書を参考に1980年以降の批評の動向を考える。	2 時間
事後学修	講義の内容を整理し、自身の修論作成に活用する。	2 時間
12. 1980年以降の研究論文の講読（1）		
事前学修	修論のテーマと深く関わる研究論文を読み、その評価を行う。	2 時間
事後学修	授業で取り上げた論文を自分の修士論文に批判的に取り入れる方法を考える。	2 時間
13. 1990年以降の研究論文の講読（2）		
事前学修	修論のテーマと深く関わる研究論文を読み、その評価を行う。	2 時間
事後学修	授業で取り上げた論文を自分の修士論文に批判的に取り入れる方法を考える。	2 時間
14. 2000年以降の研究論文の講読（3）		
事前学修	修論のテーマと深く関わる研究論文を読み、その評価を行う。	2 時間
事後学修	授業で取り上げた論文を自分の修士論文に批判的に取り入れる方法を考える。	2 時間
15. 修士論文のアウトライン作成		
事前学修	1 期に行った作業を参考に、最終的な修士論文のアウトラインを作成する	2 時間
事後学修	フィードバックを参考に、アウトラインを完成させる	2 時間

英米文学演習B			単位数	2単位
授業コード	M2146	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	新野 緑			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	英米文学			
本授業の概要				
I期に引き続き、イギリス文学を中心に、受講生が選んだ修士論文の作品やテーマについて、収集した文献との対話を通して独自の解釈を深め、論文執筆のルールに則って、論理的かつ説得的に論を構築、展開する方法を身につけて、修士論文を完成させる。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	イギリス文学について独自の視点で適切な課題を設定できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	論文執筆に必要な様式や、論理的な論文構築のための方法を理解し、それを実践できる。			知識・技能／思考・判断・表現力
3	必要な先行研究を批判的に評価して、独自の解釈を効果的に提示できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4	自身の解釈を論理的、説得的に構築し、英文でまとめることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業の積極的参加 30%			1／2／3／4
2	口頭発表 20%			1／2／3／4
3	期末レポート50%			1／2／3／4
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧			事前・事後学修内容と時間	
1. thesis sentenceとアウトラインの作成				
事前学修	夏休み中に修士論文の具体的な内容を定めて、アウトラインとthesis sentence を作成できるようにする。			3 時間
事後学修	授業でのフィードバックを参考にアウトラインやthesis sentenceを修正する。			2 時間
2. 参考文献リストの作成				
事前学修	アウトラインに基づいて、参考文献リストを精査、作成する。			2 時間
事後学修	授業でのフィードバックをもとに、必要な参考文献を加える。			2 時間
3. 中間発表				
事前学修	修士論文の内容を口頭で発表する。			2 時間
事後学修	授業中のフィードバックを参考に、構想を修正し、執筆に備える。			2 時間
4. 論文執筆: Introduction				
事前学修	修士論文のIntroductionを作成する。			3 時間
事後学修	授業中のコメントを参考に、自分なりの修正方法を考える。			2 時間
5. フィードバック				
事前学修	修正版のIntroductionを執筆する。			2 時間
事後学修	フィードバックを受けてIntroductionを完成させる。			2 時間

6. 論文執筆 Chapter I		
事前学修	Introductionに続くChapter Iを執筆する。	3 時間
事後学修	授業でのフィードバックを受けて、修正案を考える。	2 時間
7. フィードバック		
事前学修	修正版のChapter Iを執筆する。	3 時間
事後学修	授業でのフィードバックを受けて、修正版のChapter Iを完成させる。	2 時間
8. 論文執筆 Chapter II		
事前学修	Chapter IIを執筆する。	3 時間
事後学修	授業でのフィードバックを受けて、修正案を考える。	2 時間
9. フィードバック		
事前学修	修正版のChapter IIを執筆する。	3 時間
事後学修	授業でのフィードバックを受けて、修正版のChapter IIを完成させる。	2 時間
10. 論文執筆 Chapter III		
事前学修	論文のChapter IIIを執筆する。	3 時間
事後学修	授業でのフィードバックを受けて、Chapter III の修正案を考える。	2 時間
11. フィードバック		
事前学修	Chapter IIIの修正版を執筆する。	3 時間
事後学修	授業でのフィードバックを受けて、Chapter IIIの修正案を完成させる。	2 時間
12. 論文執筆 : Conclusion		
事前学修	論文のConclusionを執筆する	3 時間
事後学修	授業でのフィードバックを受けて、Conclusionの修正案を考える。	2 時間
13. フィードバック		
事前学修	Conclusionの修正案を執筆する。	3 時間
事後学修	授業でのフィードバックを受けて、修正案を考える。	2 時間
14. 論文全体の見直しと推敲		
事前学修	論文全体を通して、見直しと推敲を行う。	3 時間
事後学修	授業でのフィードバックを受けて、論文を完成させる。	3 時間
15. 完成論文の発表と自己評価		
事前学修	完成論文に関する発表を行い、自己評価を行う。	2 時間
事後学修	授業でのフィードバックをもとに、更なる修正を加える。	2 時間

試験等
第16週に期末レポートを提出する
試験のフィードバックの方法
manabaなどを通して、適宜フィードバックを行う。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書>『MLAハンドブック第8版』The Modern Language Association著、長尾和夫監修、秀和システム、2017年。ISBN-978-4798053202（受講者は各自購入のこと。ただし「英米文学演習A」の受講者は同じテキストなので新たに購入する必要はない） その他、主要文献については受講生の選んだテーマに則したものを選び、プリント等を配布する <参考書>MLA Handbook 9th Edition. Modern Language Association of America, 2021. ISBN-13 : 978-1603293518
オフィスアワー
随時。授業の前後やメール等で質問、相談を受け付ける。対面での相談を希望する場合は、事前にメールで予約してほしい。
連絡先
niino_midori@m.ndsu.ac.jp
留意事項
1期の「英米文学演習A」の授業を受講していること。 授業で学んだ論文執筆の手順を、的確に実践できる様に、自主的に研究を進めるとともに、疑問点や問題点が出てきたら、積極的に質問をして、早期に解決できるようにしてほしい。 研究対象のテキストの読解や解釈、執筆を余裕を持って十分に行うこと。

英米文学特論VA				単位数	2単位
授業コード	M2221	科目ナンバリング		開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	里内 克巳				
時間割備考	対面とオンライン併用				
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英米文学				
本授業の概要					
この授業では、20世紀初期の時代を中心に、アメリカの女性作家による小説作品への理解を深める演習を行なう。具体的にはEdith Wharton（1862-1937）に焦点を当て、中期の代表作である短めの長編_Summer_（1917）を精読しながら受講者と議論を行なっていく。					
アクティブラーニングの実施内容					
		発見学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	特に20世紀前半に重点を置いて、アメリカ文学・文化の時代ごとの特徴について説明できる。			知識・技能／主体性	
2	出版された時期の時代的背景を踏まえ、ジェンダーや階級などの観点から作品のテーマや読みどころを説明できる。			思考・判断・表現力／主体性	
3	英語で書かれた文学作品を正確に読解し、文体の特徴・叙述の進め方・レトリック上の工夫などについて具体的に説明できる。			思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	平常点（80%） 平常点とは、発表など授業への参加・取り組みの仕方を総合したものである。			1／2／3	
2	学期末レポート（20%）			1／2／3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
第 1 回 イントロダクション					
事前学修	シラバスをよく読み、授業に備える。			0.5時間	
事後学修	授業での説明を再確認し、疑問などがあればメールで問い合わせる。			0.5時間	
第 2 回 Edith Wharton_Summer_ch.1					
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。			3～4時間	
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。			0.5時間	
第 3 回 Edith Wharton_Summer_ch.2,3					
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。			3～4時間	
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。			0.5時間	
第 4 回 Edith Wharton_Summer_ch.4,5					
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。			3～4時間	
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。			0.5時間	
第 5 回 Edith Wharton_Summer_ch.6					
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。			3～4時間	
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。			0.5時間	

第 6 回 Edith Wharton_Summer_ch. 7		
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。	3～4 時間
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。	0.5時間
第 7 回 Edith Wharton_Summer_ch. 8		
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。	3～4 時間
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。	0.5時間
第 8 回 Edith Wharton_Summer_ch. 9		
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。	3～4 時間
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。	0.5時間
第 9 回 Edith Wharton_Summer_ch. 10, 11		
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。	3～4 時間
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。	0.5時間
第 10 回 Edith Wharton_Summer_ch. 12		
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。	3～4 時間
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。	0.5時間
第 11 回 Edith Wharton_Summer_ch. 13, 14		
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。	3～4 時間
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。	0.5時間
第 12 回 Edith Wharton_Summer_ch. 15		
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。	3～4 時間
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。	0.5時間
第 13 回 Edith Wharton_Summer_ch. 16		
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。	3～4 時間
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。	0.5時間
第 14 回 Edith Wharton_Summer_ch. 17, 18		
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。	3～4 時間
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。	0.5時間
第 15 回 振り返り（講義）		
事前学修	読み終えた作品全体を眺め直し、英語のレベルや物語や表現のレベルでなお出てきた疑問やアイデアなどについてメモを取り、発言できるよう準備する。	2 時間
事後学修	課題レポートの指示を確認し、準備を進める。	1 時間

英米文学特論VB				単位数	2単位
授業コード	M2226	科目ナンバリング		開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	里内 克巳				
時間割備考	対面とオンライン併用				
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英米文学				
本授業の概要					
この授業では、20世紀初期の時代を中心に、アメリカの女性作家による小説作品への理解を深める演習を行なう。具体的には前学期に引き続きEdith Wharton（1862-1937）に焦点を当て、知名度の高い中編_Ethan Frome_(1911)を精読しながら受講者と議論を行なっていく。平易で短めの作品なので、読了後は短編の傑作“Roman Fever”(1934)へと読み進んでいく。					
アクティブラーニングの実施内容		発見学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	特に20世紀前半に重点を置いて、アメリカ文学・文化の時代ごとの特徴について説明できる。			知識・技能／主体性	
2	出版された時期の時代的背景を踏まえ、ジェンダーや階級などの観点から作品のテーマや読みどころを説明できる。			思考・判断・表現力／主体性	
3	英語で書かれた文学作品を正確に読解し、文体の特徴・叙述の進め方・レトリック上の工夫などについて具体的に説明できる。			思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	平常点（80%） 平常点とは、発表など授業への参加・取り組みの仕方を総合したものである。			1／2／3	
2	学期末レポート（20%）			1／2／3	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
第 1 回 イントロダクション					
事前学修	シラバスをよく読み、授業に備える。			0.5時間	
事後学修	授業での説明を再確認し、疑問などがあればメールで問い合わせる。			0.5時間	
第 2 回 Edith Wharton_Ethan Frome_Preface					
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。			3～4時間	
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。			0.5時間	
第 3 回 Edith Wharton_Ethan Frome_ch.1					
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。			3～4時間	
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。			0.5時間	
第 4 回 Edith Wharton_Ethan Frome_ch.2,3					
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。			3～4時間	
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。			0.5時間	
第 5 回 Edith Wharton_Ethan Frome_ch.4					
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。			3～4時間	
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。			0.5時間	

第 6 回 Edith Wharton_Ethan Frome_ch. 5, 6		
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。	3～4 時間
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。	0. 5時間
第 7 回 Edith Wharton_Ethan Frome_ch. 7		
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。	3～4 時間
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。	0. 5時間
第 8 回 Edith Wharton_Ethan Frome_ch. 8		
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。	3～4 時間
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。	0. 5時間
第 9 回 Edith Wharton_Ethan Frome_ch. 9(1)		
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。	3～4 時間
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。	0. 5時間
第 10 回 Edith Wharton_Ethan Frome_ch. 9(2)		
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。	3～4 時間
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。	0. 5時間
第 11 回 Edith Wharton_Ethan Frome_Conclusion		
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。	3～4 時間
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。	0. 5時間
第 12 回 _Ethan Frome_振り返り（批評に触れる）		
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。	3～4 時間
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。	0. 5時間
第 13 回 Edith Wharton, “Roman Fever”（1）		
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。	3～4 時間
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。	0. 5時間
第 14 回 Edith Wharton, “Roman Fever”（2）		
事前学修	指定された章をあらかじめきちんと読み、英語のレベルで分からなかった箇所について質問できるようにしておく。また、物語や表現のレベルでの疑問点や興味深いと考えた点についてメモを取り、発言できるよう準備する。	3～4 時間
事後学修	授業で学んだことを振り返って整理し、疑問が出ればメールで尋ねるなどして確認。	0. 5時間
第 15 回 振り返り（講義）		
事前学修	読み終えた作品全体を眺め直し、英語のレベルや物語や表現のレベルでなお出てきた疑問やアイデアなどについてメモを取り、発言できるよう準備する。	2 時間
事後学修	課題レポートの指示を確認し、準備を進める。	1 時間

試験等
期末試験の代わりにレポートを課する。授業が半分まで進んだあたりで詳細を通知するが、授業での学びを振り返ると共に、自身で調べ考察したことを盛り込むようなエッセイ・ライディング（日本語ないしは英語）の課題となる予定である。
試験のフィードバックの方法
レポートを添削後、講評と共にメールで返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
（必携書）購入の必要はありません。 Edith Wharton, _Ethan Frome_(Penguin English Library) ISBN-13: 978-0-141-38940-0 （参考書） イーディス・ウォートン（作）、宮澤優樹（訳）、『イーサン・フロム』（白水社、2024年）
オフィスアワー
授業の終了後、またはメールで質問を受け付ける。
連絡先
satwain09@wombat.zaq.ne.jp satouchi-k.hmt@osaka-u.ac.jp
留意事項

英米文学特論IIA			単位数	2単位
授業コード	M2231	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	David Ramsey			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	英米文学			
本授業の概要				
This class provides an introduction to the study of traditional folktales or fairy tales. In this semester we will study “Hansel and Gretel,” “Little Red Riding Hood,” “Cinderella,” and “Snow White,” and we will learn about their parallels in other tales from around the world. We will closely read the tales, and we will consider the tales’ sources, some modern revisions, as well as relevant scholarship and criticism—including approaches from the fields of psychology and gender studies. Art, film, and music will also be studied to situate the stories in a broader, more comprehensive and enjoyable cultural frame.				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	Students will be able to recognize and explain in English the folktales and fairy tales, and important cultural archetypes found in them.		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	Students will be able to recognize and apply in English different critical approaches that reveal the cultural and ideological significance of these tales.		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	Students will be able to recognize and explain in English depictions of these tales in art, music, film, and later literary treatments.		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	Active class participation (30%)		1／2	
2	Weekly presentations and/or reports (40%)		1／2	
3	Final 15-page essay (30%)		1／2	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業		All instruction and materials are in English.		
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1. Introduction: folktales, fairy tales, and archetypes				
事前学修	Reading and writing Assignment 1		2 hours reading and writing	
事後学修	Folk tales, Fairy Tales, archetypes		2 hours reading and writing	
2. Fairy Tales and critical approaches (psychology, gender, etc.)				
事前学修	Reading and writing Assignment 2		2 hours reading and writing	
事後学修	Approaches, psychology, gender		2 hours reading and writing	
3. Hansel and Gretel: sources, close reading and analysis				
事前学修	Reading and writing Assignment 3		2 hours reading and writing	
事後学修	Hansel and Gretel sources		2 hours reading and writing	
4. Hansel and Gretel: modern revisions: art, music, and film				
事前学修	Reading and writing Assignment 4		2 hours reading and writing	
事後学修	Hansel and Gretel modern revisions		2 hours reading and writing	
5. Hansel and Gretel: scholarship and criticism				
事前学修	Reading and writing Assignment 5		2 hours reading and writing	
事後学修	Hansel and Gretel scholarship		2 hours reading and writing	

6. Little Red Riding Hood: sources, close reading and analysis		
事前学修	Reading and writing Assignment 6	2 hours reading and writing
事後学修	Little Red Riding Hood sources	2 hours reading and writing
7. Little Red Riding Hood: modern revisions: art, music, and film		
事前学修	Reading and writing Assignment 7	2 hours reading and writing
事後学修	Little Red Riding Hood modern revisions	2 hours reading and writing
8. Little Red Riding Hood: scholarship and criticism		
事前学修	Reading and writing Assignment 8	2 hours reading and writing
事後学修	Little Red Riding Hood scholarship	2 hours reading and writing
9. Cinderella: sources, close reading and analysis		
事前学修	Reading and writing Assignment 9	2 hours reading and writing
事後学修	Cinderella sources	2 hours reading and writing
10. Cinderella: modern revisions: art, music, and film		
事前学修	Reading and writing Assignment 10	2 hours reading and writing
事後学修	Cinderella modern revisions	2 hours reading and writing
11. Cinderella: scholarship and criticism		
事前学修	Reading and writing Assignment 11	2 hours reading and writing
事後学修	Cinderella scholarship	2 hours reading and writing
12. Snow White: sources, close reading and analysis		
事前学修	Reading and writing Assignment 12	2 hours reading and writing
事後学修	Snow White sources	2 hours reading and writing
13. Snow White: modern revisions: art, music, and film		
事前学修	Reading and writing Assignment 13	2 hours reading and writing
事後学修	Snow White modern revisions	2 hours reading and writing
14. Snow White: scholarship and criticism: review of primary and secondary texts		
事前学修	Reading and writing Assignment 14	2 hours reading and writing
事後学修	Snow White scholarship	2 hours reading and writing
15. Final Presentations/Projects		
事前学修	Final Presentations/Projects preparation	2 hours reading and writing
事後学修	Final project preparation	2 hours reading and writing

試験等
Final 15-page essay due in week 15.
試験のフィードバックの方法
Students will receive feedback during class for weekly reports, presentations. Students will receive feedback on final essay in office consultation.
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
Maria Tatar, The Classic Fairy Tales (2nd ed.). Norton, ISBN 9780393602975
オフィスアワー
By appointment
連絡先
ramsey@m.ndsu.ac.jp
留意事項
Lectures, discussions, presentations, and assignments will all be in English. Students should be actively engaged during lectures and presentations by taking notes. Class activities depend upon students being prepared, so students need to do their reading and prepare their homework ahead of class. If absent, students are responsible to find out what assignments are due.

英米文学特論IIB			単位数	2単位
授業コード	M2236	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	David Ramsey			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	英米文学			
本授業の概要				
This class provides an introduction to the study of traditional folktales or fairy tales. In this semester we will study “Beauty and the Beast,” “Sleeping Beauty,” and “The Little Mermaid,” and we will learn about their parallels in other tales from around the world. We will closely read the tales, and we will consider the tales’ sources, some modern revisions, as well as relevant scholarship and criticism—including approaches from the fields of psychology and gender studies. Art, film, and music will also be studied to situate the stories in a broader, more comprehensive and enjoyable cultural frame.				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	Students will be able to recognize and explain in English the folktales and fairy tales, and important cultural archetypes found in them.		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	Students will be able to recognize and apply in English different critical approaches that reveal the cultural and ideological significance of these tales.		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	Students will be able to recognize and explain in English depictions of these tales in art, music, film, and later literary treatments.		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	Active class participation (30%)		1／2	
2	Weekly presentations and reports (40%)		1／2	
3	Final 15-page essay (30%)		1／2	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業		All instruction and materials are in English.		
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1. Introduction: review of folktales, fairy tales, and archetypes				
事前学修	Reading and writing Assignment 1		2 hours reading and writing	
事後学修	Folktales, fairy tales, archetypes		2 hours reading and writing	
2. Beauty and the Beast: sources				
事前学修	Reading and writing Assignment 2		2 hours reading and writing	
事後学修	Beauty and the Beast sources		2 hours reading and writing	
3. Beauty and the Beast: close reading and analysis				
事前学修	Reading and writing Assignment 3		2 hours reading and writing	
事後学修	Beauty and the Beast close reading		2 hours reading and writing	
4. Beauty and the Beast: modern revisions: art, music, and film				
事前学修	Reading and writing Assignment 4		2 hours reading and writing	
事後学修	Beauty and the Beast modern revisions		2 hours reading and writing	
5. Beauty and the Beast: scholarship and criticism				
事前学修	Reading and writing Assignment 5		2 hours reading and writing	
事後学修	Beauty and the Beast scholarship		2 hours reading and writing	

6. Sleeping Beauty: sources		
事前学修	Reading and writing Assignment 6	2 hours reading and writing
事後学修	Sleeping Beauty sources	2 hours reading and writing
7. Sleeping Beauty: close reading and analysis		
事前学修	Reading and writing Assignment 7	2 hours reading and writing
事後学修	Sleeping Beauty close reading	2 hours reading and writing
8. Sleeping Beauty: modern revisions: art, music, and film		
事前学修	Reading and writing Assignment 8	2 hours reading and writing
事後学修	Sleeping Beauty modern revisions	2 hours reading and writing
9. Sleeping Beauty: scholarship and criticism		
事前学修	Reading and writing Assignment 9	2 hours reading and writing
事後学修	Sleeping Beauty scholarship	2 hours reading and writing
10. The Little Mermaid: sources		
事前学修	Reading and writing Assignment 10	2 hours reading and writing
事後学修	Little Mermaid sources	2 hours reading and writing
11. The Little Mermaid: close reading and analysis		
事前学修	Reading and writing Assignment 11	2 hours reading and writing
事後学修	Little Mermaid close reading	2 hours reading and writing
12. The Little Mermaid: modern revisions: art, music, and film		
事前学修	Reading and writing Assignment 12	2 hours reading and writing
事後学修	Little Mermaid modern revisions	2 hours reading and writing
13. The Little Mermaid: scholarship and criticism		
事前学修	Reading and writing Assignment 13	2 hours reading and writing
事後学修	Little Mermaid scholarship	2 hours reading and writing
14. Review of primary and secondary texts		
事前学修	Reading and writing Assignment 14	2 hours reading and writing
事後学修	Review of primary and secondary texts	2 hours reading and writing
15. Final Presentations/Projects		
事前学修	Final Presentations/Projects preparation	2 hours reading and writing
事後学修	Final presentation preparation	2 hours reading and writing

試験等
Final 15-page essay due in week 15.
試験のフィードバックの方法
Students will receive feedback during class for weekly reports, presentations. Students will receive feedback on final essay in office consultation.
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
Maria Tatar, The Classic Fairy Tales (2nd ed.). Norton, ISBN 9780393602975
オフィスアワー
By appointment
連絡先
ramsey@m.ndsu.ac.jp
留意事項
Lectures, discussions, presentations, and assignments will all be in English. Students should be actively engaged during lectures and presentations by taking notes. Class activities depend upon students being prepared, so students need to do their reading and prepare their homework ahead of class. If absent, students are responsible to find out what assignments are due.

英語学言語学特論IIA				単位数	2単位
授業コード	M2320	科目ナンバリング		開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	坂口 真理				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英語学言語学				
本授業の概要					
本授業では、意味論と統語論の両領域に関係する数量詞（quantifier）を言語現象として扱う。 まず、数量詞に関わる基本的な言語現象について述べ、意味論の分野に属する一般化数量詞理論（generalized quantifier theory）についてのKeenanの初歩的な英語の文献を読み、その後、Reinhart による生成文法理論の枠組みで書かれた統語的な内容の英語文献を精読していく。授業内容についての発表も行う。余裕があれば、英語と他言語（特に日本語）の数量詞の比較もする。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	1. 英語の論文の内容を理解し、批判的に読めるようになる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	2. 英語の数量詞の分析方法について、問題意識を持てるようになる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業中の発表（30%）			1／2	
2	レポート課題（70%）			1／2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業		英語			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. Introduction -なぜ数量詞研究はおもしろいか					
事前学修	配布資料や論文を読み質問やコメントができるように予習してください。				少なくとも2時間
事後学修	英語や日本語の数量詞には、どのようなものがあるか、なぜ数量詞研究はおもしろいのかを理解する。				少なくとも2時間
2. Keenanの論文の精読					
事前学修	Keenanの論文を読んで、一般化数量詞とは何かを考える。				少なくとも2時間
事後学修	一般化数量詞の英語の具体例を考える。				少なくとも2時間
3. 一般化数量詞理論－集合として考え方					
事前学修	一般化数量詞の意味理論では、述語は特性の集合だと考える。				少なくとも2時間
事後学修	集合を使って、さまざまな数量詞の意味を考えていく。				少なくとも2時間
4. 全称数量詞と存在数量詞の論理的意味					
事前学修	論理学では、全称数量詞と存在数量詞はどのように表せるかを考える。				少なくとも2時間
事後学修	具体例としてのall , each, everyなどの言語表現は、論理的意味で正確に表せるかどうか考えてみる。				少なくとも2時間
5. さまざまな数量詞の意味					
事前学修	Keenanの論文に出てくる数量詞を論理的に分析してみる。				少なくとも2時間
事後学修	一般化数量詞はどのような性質を持つかを考える。				少なくとも2時間

6. most とmore than half—monotone-increasing quantifiers		
事前学修	most とmore than halfなどの数量詞はmonotone-increasing quantifiers（単調増加的数量詞）と呼ばれる。	少なくとも2時間
事後学修	monotone-increasingの数量詞は、どのような性質をもつか考える。	少なくとも2時間
7. no とfew --- downward decreasing quantifiers		
事前学修	no とfew などは、downward decreasing quantifiers（下降減少的数量詞）と呼ばれる。	少なくとも2時間
事後学修	downward decreasing quantifiers はどのような性質を持つか考える。	少なくとも2時間
8. まとめ		
事前学修	Keenanの一般化数量詞についての論文のまとめをする。	少なくとも2時間
事後学修	Keenanの論文の長所と短所を挙げてもらう。	少なくとも2時間
9. Reinhart (2007) の精読—生成文法の考え方 Optimal Design		
事前学修	Reinhart (2007) は、生成文法の考え方を採用し、 言語のOptimal Designについて考えている。	少なくとも2時間
事後学修	生成文法の考え方を復習する。	少なくとも2時間
10. Reference-Set Computation		
事前学修	Reference-Set Computationについて学習する。	少なくとも2時間
事後学修	Reference-Set Computationについて疑問点があれば、質問できるようにする。	少なくとも2時間
11. Quantifier Scope		
事前学修	ReinhartのQuantifier Scope（数量詞の作用域）についての考え方を理解する。	少なくとも2時間
事後学修	Quantifier Scope現象については、どのような問題があると考えられるか。	少なくとも2時間
12. The Optimistic QR view of the 1970s		
事前学修	1970年代には、すべての数量詞がQuantifier Raising（数量詞の繰り上げ）という操作で分析できると考えられていた。	少なくとも2時間
事後学修	QRの問題点について、考えてみよう。	少なくとも2時間
13. The Syntactic Freedom with Existential Wide Scope		
事前学修	存在数量詞が広い作用域を取るときに、統語的な制限はないように思われる。	少なくとも2時間
事後学修	存在数量詞が広い作用域を取るようなさまざまな例を考える。	少なくとも2時間
14. The “Realistic ” QR View of the 1990s		
事前学修	1990年代の「現実的な」QRの考え方を紹介する。	少なくとも2時間
事後学修	「現実的な」QRの問題点について考えてみよう。	少なくとも2時間
15. 日本語との比較対照とまとめ		
事前学修	日本語にも、QRのような規則は必要なのだろうか。 レポート課題についての質問やアイデアを受け付ける。	少なくとも2時間
事後学修	さらに、質問がある場合、メールでの質問を受け付けます。	少なくとも2時間

試験等
期末レポートを課す。
試験のフィードバックの方法
レポートにコメントをして返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業で読む文献は、すべて教員が用意する。 1) Keenan, Edward L. (1996) " Semantics of English Quantifiers" 2) Reinhart, Tanya (2006) Interface Strategies: Optimal and Costly Computations その他レポートを書くために、必要な文献がありましたら、紹介しますので、相談してください。
オフィスアワー
授業中質問するか、manaba もしくは、emailで質問してください。
連絡先
maris@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修希望する学生は、登録前に担当教員と面談すること。 本授業を履修する学生は、十分予習をすること。

英語学言語学特論IIB			単位数	2単位
授業コード	M2325	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	坂口 真理			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	英語学言語学			
本授業の概要				
1 期で取り上げた 数量詞についてのReinhartの文献をさらに読み進めていく。彼女の分析が各受講者の研究テーマとどのような関わりを持つかについて、議論を深めていく。余裕があれば、英語の数量詞と他言語（特に日本語）の数量詞との比較を行う。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	1. 英語の論文の内容を理解し、批判的に読めるようになる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	2. 英語の数量詞の分析方法について、問題意識を持てるようになる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	3. 研究の対象となる資料を収集し、文献で学んだ理論を使って分析ができるようになる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業中の発表（30%）		1／2／3	
2	レポート課題（70%）		1／2／3	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1. 1 期の課題レポートについての受講者による中間発表				
事前学修	1期の課題レポートについて、ハンドアウトを作り、他の人にもわかりやすく発表する。 他の受講者の発表を批判的にきき、質問やコメントができるようにする。			少なくとも2時間
事後学修	今日の授業で、自分の課題の参考になったところがあれば、まとめておく。			少なくとも2時間
2. Reinhart(2007) The Alternative of Wide Scope In Situ				
事前学修	QRをしない数量詞で広い作用域を持つものに関して代案を考える。			少なくとも2時間
事後学修	この代案の妥当性について考える。			少なくとも2時間
3. Wh-In-Situ				
事前学修	英語の移動しないwh-要素について考える。			少なくとも2時間
事後学修	wh-in-situの例文を集め、その特徴について考える。			少なくとも2時間
4. Sluicing				
事前学修	Reinhart のSluicing の分析について考える。			少なくとも2時間
事後学修	英語のSluicingの例文を集め、分析を考える。			少なくとも2時間
5. The Interpretation Problem of Wide Scope In Situ				
事前学修	広い作用域を取る、移動しない要素の解釈上の問題を考える。			少なくとも2時間
事後学修	Reinhartの分析の問題点を考える。			少なくとも2時間

6. Existential Wide Scope		
事前学修	存在表現が広い作用域を持つ場合を考える。	少なくとも2時間
事後学修	存在表現が広い作用域を持つ英語の例文を集め、その特徴を考える。	少なくとも2時間
7. The Semantic Problem with Island-Free QR		
事前学修	QRをしたときに島の条件に従わない場合の意味論上の問題点を考える。	少なくとも2時間
事後学修	Reinhart の説明を理解する。	少なくとも2時間
8. An Intermediate Summary まとめ		
事前学修	ここまでの議論のまとめをする。	少なくとも2時間
事後学修	議論がわかりにくい場合は質問をする。	少なくとも2時間
9. Where No QR Is Needed: Choice Functions for Existential Quantifiers		
事前学修	QRが必要ない場合、存在数量詞のために選択関数(choice function)を使う。	少なくとも2時間
事後学修	選択関数について理解を深める。	少なくとも2時間
10. Choice Functions and Existential Closure		
事前学修	選択関数とExistential closureについて考える。	少なくとも2時間
事後学修	Existential closureの問題点について考える。	少なくとも2時間
11. Deriving the Choice-Function Interpretation		
事前学修	選択関数の解釈が必要になる場合について考える。	少なくとも2時間
事後学修	Reinhart の著書で述べている以外にも選択関数を派生できる場合があるか考える。	少なくとも2時間
12. The Collective-Distributive Distinction		
事前学修	数量詞の集団的解釈(collective reading)と分配的解釈(distributive reading)について学ぶ。	少なくとも2時間
事後学修	英語の2種類の解釈の例の他に、日本語でもこの2種類の解釈があるかどうか考える。	少なくとも2時間
13. Which Indefinites Are interpretable by Choice Functions?		
事前学修	どの不定数量詞が選択関数によって解釈可能であるかを考える。	少なくとも2時間
事後学修	日本語にも不定数量詞はあるか、選択関数による解釈は可能かを考える。	少なくとも2時間
14. Scope-Shift: An Interface Repair Strategy		
事前学修	インターフェースでの修正方略としての作用域の移動 (Scope-Shift) を考える。	少なくとも2時間
事後学修	作用域の移動 (Scope-Shift) の有効性について考える。	少なくとも2時間
15. Reinhartの分析の利点と問題点		
事前学修	Reinhartの分析の利点と問題点について議論する準備をする。	少なくとも2時間
事後学修	授業中に明確になった事項をノートにまとめておく。	少なくとも2時間

試験等
期末レポートを課す。
試験のフィードバックの方法
希望があれば、レポートを返却する。 授業中口頭でfeedback する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業で読む文献は、すべて教員が用意する。 1) Keenan, Edward L. (1996) " Semantics of English Quantifiers" 2) Reinhart, Tanya (2006) Interface Strategies: Optimal and Costly Computations. その他レポートを書くために、必要な文献がありましたら、紹介しますので、相談してください。
オフィスアワー
授業中またはmanabaでしてください。メールでも質問を受け付けます。
連絡先
maris@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修希望する学生は、登録前に担当教員と面談すること。 本授業を履修する学生は、十分予習をすること。 特論IIAと関係する内容となっているので、連続して履修することが望ましい。

英語学言語学特論IIIA				単位数	2単位
授業コード	M2330	科目ナンバリング		開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	齋藤 衛				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	英語学言語学				
本授業の概要					
現在追及されている極小主義統語論の背景と概要を学ぶ。1970年代以降の統語論の発展を極小主義統語論に至る過程として捉え直す。また、1990年代からの極小主義理論の展開により明らかにされた新たな研究課題についても理解を深める。前半では、句構造、名詞句の分布、そして移動に関する諸原理に説明を与えるラベル付け理論を中心に議論を進め、後半では、一致や移動の局所性に説明を与えるフェイズ理論を取りあげる。随時、現在の研究課題に対して、日本語研究からどのような貢献ができるかを共に考えていく。					
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	極小主義統語論研究の課題とその背景を的確に理解しており、説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	極小主義統語論の発展に寄与する独創的な研究が遂行できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業での議論への貢献（30%）			1／2	
2	レポート（70%）			1／2	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. 生成文法：科学としての言語学					
事前学修	特になし。			0時間	
事後学修	授業では、議論を積み上げながら理論の発展を追っていくので、復習を怠らないこと。			4時間	
2. 言語の構造、X' 理論					
事前学修	授業時に紹介する参考文献の熟読。			4時間	
事後学修	授業では、議論を積み上げながら理論の発展を追っていくので、復習を怠らないこと。			2時間	
3. 非対格仮説、VP内主語仮説					
事前学修	授業時に紹介する参考文献の熟読。			4時間	
事後学修	授業では、議論を積み上げながら理論の発展を追っていくので、復習を怠らないこと。			2時間	
4. 名詞句の分布と格理論					
事前学修	授業時に紹介する参考文献の熟読。			4時間	
事後学修	授業では、議論を積み上げながら理論の発展を追っていくので、復習を怠らないこと。			2時間	
5. 最終手段の原理からラベル付け理論へ					
事前学修	授業時に紹介する参考文献の熟読。			4時間	
事後学修	授業では、議論を積み上げながら理論の発展を追っていくので、復習を怠らないこと。			2時間	

6. phi 素性一致を欠く言語におけるラベル付け		
事前学修	授業時に紹介する参考文献の熟読。	4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げながら理論の発展を追っていくので、復習を怠らないこと。	2時間
7. 日英語の類型的特徴の説明（I）：自由語順と多重主語		
事前学修	授業時に紹介する参考文献の熟読。	4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げながら理論の発展を追っていくので、復習を怠らないこと。	2時間
8. 日英語の類型的特徴の説明（II）：語彙的複合動詞と名詞修飾節		
事前学修	授業時に紹介する参考文献の熟読。	4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げながら理論の発展を追っていくので、復習を怠らないこと。	2時間
9. 弱主要部としての文法格、theta 規準再考		
事前学修	授業時に紹介する参考文献の熟読。	4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げながら理論の発展を追っていくので、復習を怠らないこと。	2時間
10. 移動と照応形束縛の局所性		
事前学修	授業時に紹介する参考文献の熟読。	4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げながら理論の発展を追っていくので、復習を怠らないこと。	2時間
11. フェイズ理論に基づく説明		
事前学修	授業時に紹介する参考文献の熟読。	4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げながら理論の発展を追っていくので、復習を怠らないこと。	2時間
12. 局所性に見られる言語間変異		
事前学修	授業時に紹介する参考文献の熟読。	4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げながら理論の発展を追っていくので、復習を怠らないこと。	2時間
13. 一致の有無に言及するフェイズの定義		
事前学修	授業時に紹介する参考文献の熟読。	4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げながら理論の発展を追っていくので、復習を怠らないこと。	2時間
14. 制御の移動分析		
事前学修	授業時に紹介する参考文献の熟読。	4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げながら理論の発展を追っていくので、復習を怠らないこと。	2時間
15. 適正束縛効果などに見られる言語間変異		
事前学修	授業時に紹介する参考文献の熟読。	4時間
事後学修	レポートの執筆。	6時間

英語学言語学特論IIIB			単位数	2単位
授業コード	M2335	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	齋藤 衛			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	英語学言語学			
本授業の概要				
ヨーロッパを中心に盛んに追及され、大きな成果をあげているカートグラフィー研究をとり上げる。Luigi Rizzi氏、Guglielmo Cinque氏などによる先行研究を概観した上で、日本語を中心とした比較統語論研究からどのような貢献ができるかを共に考えていく。モーダル、補文標識、Wh句の解釈、談話小辞などに焦点をあてて、議論を進める。				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	カートグラフィー研究の課題とその背景を的確に理解しており、説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	カートグラフィー研究の発展に寄与する独創的な研究が遂行できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業での議論への貢献（30%）			1／2
2	レポート（70%）			1／2
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1. 文周縁部のカートグラフィー				
事前学修	特になし。			0時間
事後学修	授業では、議論を積み上げて結論を導いていくので、復習を怠らないこと。			4時間
2. 副詞句のカートグラフィー				
事前学修	授業で示された参考文献の熟読。			4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げて結論を導いていくので、復習を怠らないこと。			2時間
3. 補文標識の階層性（I）				
事前学修	授業で示された参考文献の熟読。			4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げて結論を導いていくので、復習を怠らないこと。			2時間
4. 補文標識の階層性（II）				
事前学修	授業で示された参考文献の熟読。			4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げて結論を導いていくので、復習を怠らないこと。			2時間
5. 主題の位置				
事前学修	授業で示された参考文献の熟読。			4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げて結論を導いていくので、復習を怠らないこと。			2時間

6. モーダルの階層性		
事前学修	授業で示された参考文献の熟読。	4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げて結論を導いていくので、復習を怠らないこと。	2時間
7. 談話小辞の階層性		
事前学修	授業で示された参考文献の熟読。	4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げて結論を導いていくので、復習を怠らないこと。	2時間
8. 選択制限と意味解釈から描くカートグラフィー		
事前学修	授業で示された参考文献の熟読。	4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げて結論を導いていくので、復習を怠らないこと。	2時間
9. 補文の意味解釈における「発話」		
事前学修	授業で示された参考文献の熟読。	4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げて結論を導いていくので、復習を怠らないこと。	2時間
10. 補文の意味解釈における「事象」		
事前学修	授業で示された参考文献の熟読。	4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げて結論を導いていくので、復習を怠らないこと。	2時間
11. 英語における補文の意味解釈に関する諸問題		
事前学修	授業で示された参考文献の熟読。	4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げて結論を導いていくので、復習を怠らないこと。	2時間
12. Wh疑問文に見られる言語間変異 (I)		
事前学修	授業で示された参考文献の熟読。	4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げて結論を導いていくので、復習を怠らないこと。	2時間
13. Wh疑問文に見られる言語間変異 (I)		
事前学修	授業で示された参考文献の熟読。	4時間
事後学修	授業では、議論を積み上げて結論を導いていくので、復習を怠らないこと。	2時間
14. 焦点としてのWh句		
事前学修	授業で示された参考文献の熟読。	4時間
事後学修	授業を通して学んだことをまとめる。	4時間
15. 総復習		
事前学修	授業を通して学んだことをまとめる。	4時間
事後学修	レポートに取り組み、完成させる。	6時間

英語学言語学特論IVA			単位数	2単位
授業コード	M2340	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	山口 麻衣子			
時間割備考	2025年度入学から新設			
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）	1 講義			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	英語学言語学			
本授業の概要				
この授業では談話と生成文法について概観し、関連する論文や構文を見て行く。日本語、英語、韓国語についてトピック、フォーカス、ケースにかかわる構文や問題について見て行き、諸言語で言われていることが日本語ではどのようなことが言えるか、またはその逆について考えていく。				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	談話に関する基本的な概念について理解でき使用することができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	統語論と諸分野のインターフェイス領域で説明できる現象に興味を持ち自らのリサーチトピックを見つける。		思考・判断・表現力／主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1				
2	授業での議論へ貢献 20%		1／2	
3	発表 30%		1／2	
4	レポート 50%		1／2	
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1. 談話と文法 Part 1				
事前学修	指定された箇所を読んでくる。			2時間
事後学修	不明点の解消と内容理解			2時間
2. 談話と文法 Part 2				
事前学修	指定した文献を読んでくる。			2時間
事後学修	不明点の解消と内容理解			2時間
3. 提示機能 Part 1				
事前学修	指定箇所を読んでくる。			2時間
事後学修	不明点の解消と内容理解			2時間
4. 提示機能 Part2				
事前学修	指定箇所を読んでくる。			3時間
事後学修	内容の振り返りと疑問点の解決			2時間
5. 多重主格構文 Part1				
事前学修	指定箇所を読んでくる。			2.5時間
事後学修	内容の理解と問題点の解決			2時間

6. 多重主格構文 Part 2		
事前学修	指定した箇所を読んでくる。	2時間
事後学修	不明点の解決	2時間
7. Kim (2015) nun について Part 1		
事前学修	該当箇所を読んでくる	2時間
事後学修	不明点は解決しておく	2時間
8. Kim (2015) nun について Part2		
事前学修	該当箇所を読んでくる。	3時間
事後学修	不明点の解決	2時間
9. が・の交替 Part1		
事前学修	指定したところを読んでくる。	3時間
事後学修	不明点の解決	2時間
10. が・の交替 Part 2		
事前学修	指定箇所を読んでくる。	2時間
事後学修	不明点の解決	2時間
11. が・の交替に関わる諸問題 Part 1		
事前学修	該当箇所を読んでくる	2時間
事後学修	不明点の解決	2時間
12 が・の交替に関わる諸問題 Part2		
事前学修	指定箇所を読んでくる。	3 時間
事後学修	不明点の解決	2時間
13. Park and Yeon (2023) Part1: IS in Korean		
事前学修	指定箇所を読んでくる。	3時間
事後学修	不明点の解決	2時間
14. Park and Yeon (2023) Part2		
事前学修	指定箇所を読んでくる。	3時間
事後学修	不明点の解決	2時間
15. Park and Yeon (2023) Part3		
事前学修	指定箇所を読んでくる。	3時間
事後学修	不明点の解決	2時間

試験等
レポート
試験のフィードバックの方法
口頭またはメールによるフィードバック
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
三原健一（2022）『日本語構文大全』 II巻 提示機能から見る文法 くろしお出版 三原健一（2022 3 『日本語構文大全』 III巻 談話の地平へ くろしお出版 Kim, Ilkyu (2015) "Is Korean -(n)un a topic marker? On the nature of -(n)un and its relation to information structure," Lingua, Volume 154, 87-109. 他 Park, Chongwon Park and Jaehoon Yeon (2023) "Information structure in Korean: What's new and what's old?," Journal of Pragmatics, Volume 205, 16-32. 上記のほか別途指定する予定。 購入は不要。
オフィスアワー
アポイントを取ること。
連絡先
m-yamaguchi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修希望者は登録前に必ず担当教員と面談すること。 別途指示するテキストや論文をしっかりと読み込み、ハンドアウトを作成すること。

英語学言語学特論IVB			単位数	2単位
授業コード	M2345	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	山口 麻衣子			
時間割備考	2025年度入学から新設			
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）	1 講義			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	英語学言語学			
本授業の概要				
この授業では統語論とそのほかの言語学諸分野とのインターフェイス領域に関わる側面について概観していく。 今回取り扱うのは統語論と形態論、統語論と音韻論、統語構造分析の一つであるカートグラフィーと情報構造におけるインターフェイス領域の研究について扱う。				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	統語論と諸分野のインターフェイス領域の研究についての趣旨を理解できる。		知識・技能	
2	統語論と諸分野のインターフェイス領域で説明できる現象に興味を持ち自らのリサーチトピックを見つける。		思考・判断・表現力／主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1				
2	授業での議論へ貢献 20%		1／2	
3	発表 30%		1／2	
4	レポート 50%		1／2	
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1. Introduction				
事前学修	指定された箇所を読んでくる。		2時間	
事後学修	不明点の解消と内容理解		2時間	
2. 韻律階層と厳密階層仮説				
事前学修	指定した文献を読んでくる。		2時間	
事後学修	不明点の解消と内容理解		2時間	
3. 統語構造と韻律領域				
事前学修	指定箇所を読んでくる。		2時間	
事後学修	不明点の解消と内容理解		2時間	
4. 統語－音韻写像研究の理論的進展 Part1				
事前学修	指定箇所を読んでくる。		3時間	
事後学修	内容の振り返りと疑問点の解決		2時間	
5. 統語－音韻写像研究の理論的進展 Part2				
事前学修	指定箇所を読んでくる。		2.5時間	
事後学修	内容の理解と問題点の解決		2時間	

6. 統語一音韻写像研究の理論的進展 Part3: その他の問題		
事前学修	指定した箇所を読んでくる。	2時間
事後学修	不明点の解決	2時間
7. 統語論と形態論一単文の構造		
事前学修	該当箇所を読んでくる	2時間
事後学修	不明点は解決しておく	2時間
8. 多重主格構文		
事前学修	該当箇所を読んでくる。	3時間
事後学修	不明点の解決	2時間
9. 軽動詞構文		
事前学修	指定したところを読んでくる。	3時間
事後学修	不明点の解決	2時間
10. 複合動詞構文		
事前学修	指定箇所を読んでくる。	2時間
事後学修	不明点の解決	2時間
11. カートグラフィーと歴史的背景		
事前学修	該当箇所を読んでくる	2時間
事後学修	不明点の解決	2時間
12 カートグラフィー分析による緒言語の研究成果		
事前学修	指定箇所を読んでくる。	3 時間
事後学修	不明点の解決	2時間
13. Information Structureの歴史的背景 Part 1		
事前学修	指定箇所を読んでくる。	3時間
事後学修	不明点の解決	2時間
14. Information Structureの歴史的背景 Part2		
事前学修	指定箇所を読んでくる。	3時間
事後学修	不明点の解決	2時間
15. ISによる諸言語の研究成果		
事前学修	指定箇所を読んでくる。	3時間
事後学修	不明点の解決	2時間

試験等
レポート
試験のフィードバックの方法
口頭またはメールによるフィードバック
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
土橋善仁・岸本秀樹・毛利史生・中谷健太郎・中村浩一郎（著）（2021）『統語論と言語学諸分野とのインターフェイス』開拓社.
オフィスアワー
アポイントを取ること。
連絡先
m-yamaguchi@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修希望者は登録前に必ず担当教員と面談すること。 別途指示するテキストや論文をしっかりと読み込み、ハンドアウトを作成すること。

英語学言語学演習A							単位数		2単位	
授業コード		M2350	科目ナンバリング				開講年度学期		2025年度第１期	
担当者氏名		齋藤　衛								
時間割備考										
授業形態（主）		２ 演習								
授業形態（副）										
担当形態		単独								
研究分野（大学院）		英語学言語学								
本授業の概要 統語論研究の主要なトピックについて解説し、トピック毎に重要な論文を選択して、履修者にレビューをしてもらう。今期とり上げるトピックとしては、句構造、文法格の認可、多様な複合動詞の形成、省略現象を予定している。										
アクティブラーニングの実施内容						問題解決型学習				
到達目標								対応するディプロマポリシー （１知識・技能／２思考・判断・表現力／３主体性）		
１	先端的な研究論文を正確に理解できる。							知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
２	優れた論文をさらに発展させるために、建設的なコメントをすることができる。							知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
３										
４										
５										
成績評価の基準								対応する到達目標の番号		
１	授業での発表（50%）							1／2		
２	論文（50%）							1／2		
３										
４										
５										
実務経験のある教員による授業科目										
実務経験の授業への活用方法										
日本語以外の言語による授業										
授業予定一覧					事前・事後学修内容と時間					
<統語構造と文法格> 1. 文法格の理論										
事前学修	紹介された参考文献を読みつつ、研究テーマを考える。							6時間		
事後学修	復習を行い、次回のために質問を準備する。							2時間		
2. 複合動詞文の構造										
事前学修	紹介された参考文献を読みつつ、研究テーマを考える。							6時間		
事後学修	復習を行い、次回のために質問を準備する。							2時間		
3. 複合動詞文における文法格										
事前学修	紹介された参考文献を読みつつ、研究テーマを考える。							6時間		
事後学修	復習を行い、次回のために質問を準備する。							2時間		
4. 例外的格付与文										
事前学修	紹介された参考文献を読みつつ、研究テーマを考える。							6時間		
事後学修	復習を行い、次回のために質問を準備する。							2時間		
5. 格と一致の関係 <統語構造と語形成>										
事前学修	紹介された参考文献を読みつつ、研究テーマを考える。							6時間		
事後学修	復習を行い、次回のために質問を準備する。							2時間		

6. 統語的複合動詞と語彙的複合動詞		
事前学修	紹介された参考文献を読みつつ、研究テーマを考える。	6時間
事後学修	復習を行い、次回のために質問を準備する。	2時間
7. 語彙的複合動詞の統語的派生 <省略現象>		
事前学修	紹介された参考文献を読みつつ、研究テーマを考える。	6時間
事後学修	復習を行い、次回のために質問を準備する。	2時間
8. 省略現象の概観		
事前学修	紹介された参考文献を読みつつ、研究テーマを考える。	6時間
事後学修	復習を行い、次回のために質問を準備する。	2時間
9. PF削除分析とLFコピー分析		
事前学修	紹介された参考文献を読みつつ、研究テーマを考える。	6時間
事後学修	復習を行い、次回のために質問を準備する。	2時間
10. N' 省略		
事前学修	紹介された参考文献を読みつつ、研究テーマを考える。	6時間
事後学修	復習を行い、次回のために質問を準備する。	2時間
11. VP省略とスルーシング		
事前学修	紹介された参考文献を読みつつ、選択したテーマの研究を進める。	6時間
事後学修	復習を行い、論文執筆も並行して行う。	4時間
12. 項省略		
事前学修	紹介された参考文献を読みつつ、選択したテーマの研究を進める。	6時間
事後学修	復習を行い、論文執筆も並行して行う。	4時間
13. 省略現象における言語間変異		
事前学修	紹介された参考文献を読みつつ、選択したテーマの研究を進める。	6時間
事後学修	復習を行い、論文執筆も並行して行う。	4時間
14. VP省略とスルーシング再考		
事前学修	紹介された参考文献を読みつつ、選択したテーマの研究を進める。	6時間
事後学修	復習を行い、論文執筆も並行して行う。	4時間
15. 総復習		
事前学修	紹介された参考文献を読みつつ、選択したテーマの研究を進める。	6時間
事後学修	復習を行い、論文執筆も並行して行う。	4時間

英語学言語学演習B			単位数	2単位
授業コード	M2355	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	齋藤 衛			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	英語学言語学			
本授業の概要				
統語論研究の主要なトピックについて解説し、トピック毎に重要な論文を選択して、履修者にレビューをしてもらう。今期とリ上げるトピックとしては、制御、空演算子、適正束縛現象、Wh句の不定名詞句分析、Wh句の演算子分析を予定している。				
アクティブラーニングの実施内容				
問題解決型学習				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	先端的な研究論文を正確に理解できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	優れた論文をさらに発展させるために、建設的なコメントをすることができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業での研究発表（50%）		1／2	
2	論文（50%）		1／2	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
<制御と空演算子>				
1. PRO分析の問題点				
事前学修	紹介された文献を読みつつ、自らの研究を積極的に進める。			6時間
事後学修	復習に加え、提出する論文のテーマについて考える。			2時間
2. 制御の移動分析				
事前学修	紹介された文献を読みつつ、自らの研究を積極的に進める。			6時間
事後学修	復習に加え、提出する論文のテーマについて考える。			2時間
3. 空演算子の移動分析				
事前学修	紹介された文献を読みつつ、自らの研究を積極的に進める。			6時間
事後学修	復習に加え、提出する論文のテーマについて考える。			2時間
4. 制御の局所性				
事前学修	紹介された文献を読みつつ、自らの研究を積極的に進める。			6時間
事後学修	復習に加え、提出する論文のテーマについて考える。			2時間
5. コピー形成分析				
事前学修	紹介された文献を読みつつ、自らの研究を積極的に進める。			6時間
事後学修	復習に加え、提出する論文のテーマについて考える。			2時間

<適正束縛現象>		
6. 演算子移動とNP移動の非対称性		
事前学修	紹介された文献を読みつつ、自らの研究を積極的に進める。	6時間
事後学修	復習に加え、提出する論文のテーマについて考える。	2時間
7. 連鎖の解釈メカニズム		
事前学修	紹介された文献を読みつつ、自らの研究を積極的に進める。	6時間
事後学修	復習に加え、提出する論文のテーマについて考える。	2時間
8. 言語間変異と言語内変異		
事前学修	紹介された文献を読みつつ、自らの研究を積極的に進める。	6時間
事後学修	復習に加え、提出する論文のテーマについて考える。	2時間
9. コピー形成分析の可能性		
事前学修	紹介された文献を読みつつ、自らの研究を積極的に進める。	6時間
事後学修	復習に加え、提出する論文のテーマについて考える。	2時間
<Wh句の解釈>		
10. Wh句の移動分析		
事前学修	紹介された文献を読みつつ、自らの研究を積極的に進める。	6時間
事後学修	復習に加え、提出する論文のテーマについて考える。	2時間
11. 変項としての不定名詞句		
事前学修	紹介された文献を読みつつ、自らの研究を積極的に進める。	4時間
事後学修	復習に加え、提出する論文の執筆を進める。	6時間
12. Wh句の不定名詞句分析		
事前学修	紹介された文献を読みつつ、自らの研究を積極的に進める。	4時間
事後学修	復習に加え、提出する論文の執筆を進める。	6時間
13. 演算子としてのWh句		
事前学修	紹介された文献を読みつつ、自らの研究を積極的に進める。	4時間
事後学修	復習に加え、提出する論文の執筆を進める。	6時間
14. 焦点としてのWh句		
事前学修	紹介された文献を読みつつ、自らの研究を積極的に進める。	4時間
事後学修	復習に加え、提出する論文の執筆を進める。	6時間
15. 総復習		
事前学修	紹介された文献を読みつつ、自らの研究を積極的に進める。	4時間
事後学修	復習に加え、提出する論文の執筆を進める。	6時間

英語学言語学演習A			単位数	2単位
授業コード	M2360	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	木津 弥佳			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	英語学言語学			
本授業の概要				
本授業では、受講者が選んだ修士論文の課題に取り組むために必要な研究方法や分析の仕方、発表・論文のまとめ方を学ぶ。扱うテーマとしては、第二言語としての英語または日本語の習得について、第二言語習得理論を基にした研究課題を選び、関連する先行研究を洗い出し、文献を批判的・客観的に読み、深く理解するような訓練を行う。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	第二言語習得研究の課題設定を適切に行うことができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	必要な方法論を理解し、研究調査を実践することができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	英語・日本語で書かれた先行研究を的確に理解し、批判的に読むことができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業時の議論への参加 20%		1／2／3	
2	発表 30%		1／2／3	
3	研究論文 50%		1／2／3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1. 修士論文について・研究課題（仮）の設定				
事前学修	研究テーマと課題（仮）を設定する。			3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			3 時間
2. 先行研究：文献の収集				
事前学修	関連する先行研究の文献リストを作成する。			3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			3 時間
3. 先行研究：クリティカルに読む				
事前学修	先行研究を読み、内容をまとめる。			3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			3 時間
4. 先行研究：今後の課題				
事前学修	先行研究を読み、課題を洗い出す。			3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			3 時間
5. 研究課題の設定				
事前学修	研究課題を設定する。			3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			3 時間

6. 研究の方法		
事前学修	研究方法を検討する。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間
7. 調査・分析の方法		
事前学修	調査方法と分析方法を考える。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間
8. 研究調査の実施に向けて：計画を立てる		
事前学修	研究調査の計画を立てる。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間
9. 研究調査の実施に向けて：パイロットスタディ		
事前学修	パイロットスタディを実施する。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間
10. 調査結果の収集		
事前学修	データを収集する。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間
11. 調査結果のまとめ		
事前学修	調査結果をまとめる。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間
12. 先行研究と本研究の分析		
事前学修	調査結果を分析し、先行研究の結果と比較する。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間
13. 先行研究と本研究の残された問題		
事前学修	結果を考察する。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間
14. 論文の構成		
事前学修	論文の構成を考える。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間
15. 論文の作成に向けて		
事前学修	論文の概要を各章ごとにまとめる。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間

英語学言語学演習B			単位数	2単位
授業コード	M2365	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	木津 弥佳			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	英語学言語学			
本授業の概要				
本授業では、修士論文の執筆と発表・ディスカッションの際に必要な英語理解力と運用能力をさらに高め、受講者の扱う研究課題について深く理解し、わかりやすく説明する訓練を行う。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	研究調査結果をまとめ、適切な方法で分析できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	分析結果を客観的に判断し、建設的に批判することができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	深い英語理解力を持ち、高度な英語運用力を用いて発表・論文作成ができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業時の議論への参加 20%		1／2／3	
2	発表 30%		1／2／3	
3	研究論文 50%		1／2／3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1. これまでのまとめと論文内容の検討				
事前学修	1 期に執筆した論文の書き直しを行う。			3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			3 時間
2. 研究課題・方法・調査のまとめ				
事前学修	研究課題を再検討した上で、研究方法などを決定し、調査等を実施する。			3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			3 時間
3. 英語論文の書き方：構文と文体				
事前学修	これまで執筆した論文の草稿で、書き方に関する疑問点などを洗い出す。			3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			3 時間
4. 研究結果の分析：量的分析				
事前学修	研究結果を分析する。			3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			3 時間
5. 研究結果の分析：質的分析				
事前学修	研究結果を分析する。			3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			3 時間

6. 研究課題の確認		
事前学修	研究課題を再確認する。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間
7. 英語論文の書き方：引用と主張点		
事前学修	これまで書いた論文の草稿を見直す。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間
8. 分析結果に関する議論：量的観点から		
事前学修	分析結果を議論する。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間
9. 分析結果に関する議論：質的観点から		
事前学修	分析結果を議論する。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間
10. 英語論文の書き方：論理的議論		
事前学修	本論の論理展開を見直す。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間
11. 序論		
事前学修	序論を執筆する。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間
12. 結論		
事前学修	結論を執筆する。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間
13. 論文全体の見直し		
事前学修	論文全体の加筆修正を行う。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間
14. 英文要旨の書き方		
事前学修	英文要旨を作成する。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間
15. まとめ		
事前学修	論文全体を見直す。	3 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	3 時間

試験等
研究論文の提出
試験のフィードバックの方法
口頭と書面によるフィードバック
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
Woodrow, Lindy (2020) Doing a Master's Dissertation in TESOL and Applied Linguistics. Routledge. * 受講生の選んだテーマに沿って文献を選択する。その他の資料は授業中に配布する。
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
原則として、1期の英語学言語学演習（木津担当）を履修しておくこと。

国際コミュニケーション特論IA				単位数	2単位
授業コード	M2410	科目ナンバリング		開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	植野 貴志子				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	国際コミュニケーション				
本授業の概要					
社会言語学、語用論、談話分析、および関連分野の主要な文献を講読し、鍵概念や理論的枠組み、方法論に関する基礎的知識を身につける。同時に、各自の研究テーマについて適切な研究方法を見出し、予備的な調査、分析、考察を進める。授業内で発表し、フィードバックを参考にしてタームペーパーにまとめる。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	社会言語学、語用論、談話分析の鍵概念、理論的枠組み、方法論を理解し、説明することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	研究テーマを設定し、適切な方法で独自の研究を進めることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	研究成果をタームペーパーとしてまとめることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	ディスカッションへの貢献（20%）			1／2	
2	発表（30%）			1／2	
3	タームペーパー（50%）			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
イントロダクション					
事前学修	自身の研究テーマについて簡潔に説明できるよう準備する。			2時間	
事後学修	教科書のイントロダクションを読んで重要事項をまとめる。			2時間	
文献講読：R. Jakobson, Linguistics and poetics (1)					
事前学修	Linguistics and poeticsの前半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。			2時間	
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。			2時間	
文献講読：R. Jakobson, Linguistics and poetics (2)					
事前学修	Linguistics and poeticsの後半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。			2時間	
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。			2時間	
文献講読：J. L. Austin, How to do things with words (1)					
事前学修	How to do things with wordsの前半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。			2時間	
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。			2時間	
文献講読：J. L. Austin, How to do things with words (2)					
事前学修	How to do things with wordsの前半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。			2時間	
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。			2時間	

データセッション（1）		
事前学修	自身の研究で扱っているデータの概要を整理し、プレゼンテーション用の資料を作成する。議論したい点（疑問や課題）をリストアップする。	2時間
事後学修	データセッションで得たフィードバックを整理する。	2時間
文献講読：H. P. Grice, Logic and conversation（1）		
事前学修	Logic and conversationの前半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
文献講読：H. P. Grice, Logic and conversation（2）		
事前学修	Logic and conversationの後半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
データセッション（2）		
事前学修	自身の研究で扱っているデータの概要を整理し、プレゼンテーション用の資料を作成する。議論したい点（疑問や課題）をリストアップする。	2時間
事後学修	データセッションで得たフィードバックを整理する。	2時間
文献講読：M. M. Bakhtin, The problem of speech genres（1）		
事前学修	The problem of speech genresの前半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
文献講読：M. M. Bakhtin, The problem of speech genres（2）		
事前学修	The problem of speech genresの後半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
文献講読：R. Scollon, Mode and modality: The multimodal shaping of reality in public discourse（1）		
事前学修	Mode and modality: The multimodal shaping of reality in public discourseの前半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
文献講読：R. Scollon, Mode and modality: The multimodal shaping of reality in public discourse（2）		
事前学修	Mode and modality: The multimodal shaping of reality in public discourseの後半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
研究発表（1）		
事前学修	自身の研究について発表用の資料やハンドアウトを作成し、論理的で分かりやすい説明ができるよう準備する。	2時間
事後学修	授業での質疑応答やフィードバックを振り返り、分析や考察を深める。	2時間
研究発表（2）		
事前学修	自身の研究について発表用の資料やハンドアウトを作成し、論理的で分かりやすい説明ができるよう準備する。	2時間
事後学修	授業での質疑応答やフィードバックを振り返り、分析や考察を深める。	2時間

試験等
タームペーパー
試験のフィードバックの方法
授業内あるいは面談でのフィードバック
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> Jaworski, Adam, Nikolas Coupland (eds.) 2014. The Discourse Reader. Routledge, 3rd edition (ISBN: 978-0415629492) その他、必要な資料は授業で配布する。
オフィスアワー
火曜日4限 質問や面談のアPOINTメントは随時メールで受け付ける。
連絡先
uenok@m.ndsu.ac.jp
留意事項

国際コミュニケーション特論IB				単位数	2単位
授業コード	M2415	科目ナンバリング		開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	植野 貴志子				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	国際コミュニケーション				
本授業の概要					
社会言語学、語用論、談話分析の主要な文献を講読し、鍵概念や理論的枠組み、方法論に関する基礎的知識を身につける。同時に、各自の研究テーマについて適切な研究方法を見出し、予備的な調査、分析、考察を進める。授業内で発表し、フィードバックを参考にしてタームペーパーにまとめる。					

データセッション（1）		
事前学修	自身の研究で扱っているデータの概要を整理し、プレゼンテーション資料を作成する。議論したい点（疑問や課題）をリストアップする。	2時間
事後学修	データセッションで得たフィードバックを整理する。	2時間
文献講読：D. Schiffrin, Oh as a marker of information management（1）		
事前学修	Oh as a marker of information managementの前半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
文献講読：D. Schiffrin, Oh as a marker of information management（2）		
事前学修	Oh as a marker of information managementの後半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
データセッション（2）		
事前学修	自身の研究で扱っているデータの概要を整理し、プレゼンテーション用の資料を作成する。議論したい点（疑問や課題）をリストアップする。	2時間
事後学修	データセッションで得たフィードバックを整理する。	2時間
文献講読：B. Malinowski, On phatic communion（1）		
事前学修	On phatic communionの前半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
文献講読：B. Malinowski, On phatic communion（2）		
事前学修	On phatic communionの後半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
文献講読：P. Bourdieu, Language and symbolic power（1）		
事前学修	Language and symbolic powerの前半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
文献講読：P. Bourdieu, Language and symbolic power（2）		
事前学修	Language and symbolic powerの後半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
研究発表（1）		
事前学修	自身の研究について発表用の資料やハンドアウトを作成し、論理的で分かりやすい説明ができるよう準備する。	2時間
事後学修	授業での質疑応答やフィードバックを振り返り、分析や考察を進める。	2時間
研究発表（2）		
事前学修	自身の研究について発表用の資料やハンドアウトを作成し、論理的で分かりやすい説明ができるよう準備する。	2時間
事後学修	授業での質疑応答やフィードバックを振り返り、分析や考察を進める。	2時間

試験等
タームペーパー
試験のフィードバックの方法
授業内あるいは面談でのフィードバック
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> Jaworski, Adam, Nikolas Coupland (eds.) 2014. The Discourse Reader. Routledge, 3rd edition (ISBN: 978-0415629492) その他、必要な資料は授業で配布する。
オフィスアワー
火曜4限 質問や面談のアPOINTメントは随時メールで受け付ける。
連絡先
uenok@m.ndsu.ac.jp
留意事項

国際コミュニケーション特論IIA			単位数	2単位
授業コード	M2420	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第 1 期
担当者氏名	桑山 敬己			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
本授業では海外（特に英語圏）における日本研究について考える。昨年度同様、今年度は前期・後期ともに The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture を教科書として使う。同書は序章を含めて全20章から構成されており、現代日本文化の諸側面（たとえば第3章は言語、第4章は家族、第5章は学校）について、特定の専門分野（たとえば社会学）にこだわることなく、各々の側面に関する専門家が執筆している。内容的にも言語的にもレベルは高いので無理をせず、各章につき3コマ分の時間（90分×3）を充てる。つまり前期・後期ともに5章を選択して読む。1コマ目は英語の理解度の確認、2コマ目は特定の章を担当する学生による発表、そして3コマ目は講師による解説とクラス全体の討議を行う。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	海外（特に英語圏）で日本がどのように論じられてきたかを知ることによって、国際コミュニケーションを潤滑に進める能力を身につけることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力
2	担当教員の専門は文化人類学なので、受講生は主に文化人類学という特定の専門分野から日本を見ることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力
3	発表と討議を通じて大学院生に相応しい研究を自ら行うことを学ぶことができる。			主体性
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	期末レポート（70%）			1／2
2	授業中の発表と議論への貢献度（30%）			3
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧			事前・事後学修内容と時間	
第1回 Japanese Culture: An Overview 1				
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。			2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。			2時間
第2回 Japanese Culture: An Overview 2				
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。			2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。			2時間
第3回 Japanese Culture: An Overview 3				
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。			2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。			2時間
第4回 Chapter 1 Concepts of Japan, Japanese Culture and the Japanese 1				
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。			2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。			2時間
第5回 Chapter 1 Concepts of Japan, Japanese Culture and the Japanese 2				
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。			2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。			2時間

第6回 Chapter 1 Concepts of Japan, Japanese Culture and the Japanese 3		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間
第7回 Chapter 2 Japan's Emic Conceptions 1		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間
第8回 Chapter 2 Japan's Emic Conceptions 2		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間
第9回 Chapter 2 Japan's Emic Conceptions 3		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間
第10回 Chapter 3 Language 1		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間
第11回 Chapter 3 Language 2		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間
第12回 Chapter 3 Language 3		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間
第13回 Chapter 4 Family Culture 1		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間
第14回 Chapter 4 Family Culture 2		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間
第15回 Chapter 4 Family Culture 3		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間

試験等
受講生各自が選択したテーマについて期末レポート（日本語4,000字または英語で相当字数）を作成する。
試験のフィードバックの方法
期末レポートにコメントを付けて返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書 Yoshio Sugimoto, ed., The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture (Cambridge University Press, 2009).
オフィスアワー
後日発表
連絡先
後日発表
留意事項
上記の教科書（必携）は各自で入手すること。

国際コミュニケーション特論IIB			単位数	2単位
授業コード	M2425	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	桑山 敬己			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
本授業では海外（特に英語圏）における日本研究について考える。昨年度同様、今年度は前期・後期ともに The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture を教科書として使う。同書は序章を含めて全20章から構成されており、現代日本文化の諸側面（たとえば第3章は言語、第4章は家族、第5章は学校）について、特定の専門分野（たとえば社会学）にこだわることなく、各々の側面に関する専門家が執筆している。内容的にも言語的にもレベルは高いので無理をせず、各章につき3コマ分の時間（90分×3）を充てる。つまり前期・後期ともに5章を選択して読む。1コマ目は英語の理解度の確認、2コマ目は特定の章を担当する学生による発表、そして3コマ目は講師による解説とクラス全体の討議を行う。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	海外（特に英語圏）で日本がどのように論じられてきたかを知ることによって、国際コミュニケーションを潤滑に進める能力を身につけることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力
2	担当教員の専門は文化人類学なので、受講生は主に文化人類学という特定の専門分野から日本を見ることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力
3	発表と討議を通じて大学院生に相応しい研究を自ら行うことを学ぶことができる。			主体性
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	期末レポート（70%）			1／2
2	授業中の発表と議論への貢献度（30%）			3
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧			事前・事後学修内容と時間	
第1回 Chapter 5 School Culture 1				
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。			2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。			2時間
第2回 Chapter 5 School Culture 2				
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。			2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。			2時間
第3回 Chapter 5 School Culture 3				
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。			2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。			2時間
第4回 Chapter 6 Work Culture 1				
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。			2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。			2時間
第5回 Chapter 6 Work Culture 2				
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。			2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。			2時間

第6回 Chapter 6 Work Culture 3		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間
第7回 Chapter 8 Religious Culture 1		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間
第8回 Chapter 8 Religious Culture 2		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間
第9回 Chapter 8 Religious Culture 3		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間
第10回 Chapter 11 Literary Culture 1		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間
第11回 Chapter 11 Literary Culture 2		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間
第12回 Chapter 11 Literary Culture 3		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間
第13回 Chapter 18 Globalization and Cultural Nationalism 1		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間
第14回 Chapter 18 Globalization and Cultural Nationalism 2		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間
第15回 Chapter 18 Globalization and Cultural Nationalism 3		
事前学修	発表の有無にかかわらず、すべての受講生が授業で取り上げる章に目を通すこと。	2時間
事後学修	授業で説明された概念や理論について、事典などでさらに調べること。	2時間

試験等
各自が選択したテーマについて期末レポート（日本語4,000字または英語で相当字数）を作成する。
試験のフィードバックの方法
期末レポートにコメントを付けて返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書 Yoshio Sugimoto, ed., The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture (Cambridge University Press, 2009).
オフィスアワー
後日発表
連絡先
後日発表
留意事項
上記の教科書（必携）は各自で入手すること。

国際コミュニケーション特論IIIA				単位数	2単位
授業コード	M2430	科目ナンバリング		開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	Thomas Fast				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	国際コミュニケーション				
本授業の概要					
Students will get an introduction to the theories and current best practices in Foreign Language Education (FLE) including: Inquiry-based Learning, fostering global competencies in students, use of digital tools (e.g. COIL) etc. They will also learn how to apply these theories and practices to their own learning and teaching situations.					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	Students are familiar with the recommended Foreign Language Education (FLE) methodologies in practice today.			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	Students understand the theories behind FLE methodologies and how to apply them to a classroom setting.			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	Students are able to select FLE methods for their own current or future learning situations.			知識・技能	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	Weekly discussion and written reflections 60%			1／2／3	
2	FLE presentation 20%			3	
3	Independent written investigation 20%			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業		English			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. Introduction: FLE Methodologies					
事前学修	Student Preparation: Read introductory texts on the history and evolution of FLE methodologies. Reflect on your own language learning experiences and biases.			2 hours	
事後学修	Homework: Write a reflective essay analyzing your own language learning journey, identifying any methodologies (formal or informal) you've encountered, and discussing how your experiences might influence your perspective on FLE.			2 hours	
2. What: 4 Skills Instruction					
事前学修	Student Preparation: Review the principles of integrated skills instruction (listening, speaking, reading, and writing). Consider how these skills are interconnected and how they can be taught effectively in an integrated manner.			2 hours	
事後学修	Homework: Design a lesson plan segment that integrates at least two of the four skills. Explain your rationale for the chosen skills and how the activities promote authentic language use.			2 hours	
3. How: Communicative Teaching					
事前学修	Student Preparation: Read assigned materials on Communicative Language Teaching (CLT), its principles, techniques, and its emphasis on communicative competence.			2 hours	
事後学修	Homework: Develop a communicative activity or task that could be used in a CLT classroom. Explain how it promotes interaction and meaningful language use.			2 hours	
Case Study: Impact Textbook (Part 1)					
事前学修	Student Preparation: Familiarize yourself with the "Impact" textbook series (or a similar series chosen by the instructor). Analyze its approach to skills integration and communicative activities.			2 hours	
事後学修	Homework: Write a critical review of a specific unit from the "Impact" textbook, focusing on how effectively it implements communicative principles and integrates the four skills.			2 hours	
5. Case Study: Impact Textbook (Part 2)					
事前学修	Student Preparation: Continue your analysis of the "Impact" textbook, focusing on its strengths and weaknesses as a tool for communicative language teaching.			2 hours	
事後学修	Homework: Propose modifications or supplementary activities that could enhance the communicative approach of the "Impact" textbook.			2 hours	

6. What: Active Learning & CLIL		
事前学修	Student Preparation: Read assigned materials on Active Learning and Content and Language Integrated Learning (CLIL). Understand the connection between active learning strategies and successful CLIL implementation.	2 hours
事後学修	Homework: Design an active learning activity that could be used in a CLIL context. Specify the content area and the target language skills that will be addressed.	2 hours
7. How: Task-based & Project-Based Teaching		
事前学修	Student Preparation: Read assigned materials on Task-Based Learning (TBL) and Project-Based Learning (PBL). Understand the differences and similarities between these approaches.	2 hours
事後学修	Homework: Develop a task-based or project-based learning activity that could be used in a CLIL classroom. Clearly outline the task or project, the learning objectives, and the assessment criteria.	2 hours
8. Case Study: Model UN (Part 1)		
事前学修	Student Preparation: Research the Model UN format and its potential benefits for language learning and intercultural understanding.	2 hours
事後学修	Homework: Analyze the Model UN as a pedagogical tool. Discuss its potential for promoting active learning, communicative competence, and critical thinking skills.	2 hours
9. Case Study: Model UN (Part 2)		
事前学修	Student Preparation: If possible, observe or participate in a Model UN simulation.	2 hours
事後学修	Homework: Write a reflective report on your Model UN experience, focusing on its effectiveness as a language learning activity and its impact on your understanding of intercultural communication.	2 hours
10. Presenting FLE Research		
事前学修	Student Preparation: Review best practices for presenting research findings in the field of FLE.	2 hours
事後学修	Homework: Develop a presentation outline for a research project related to one of the methodologies discussed in the course.	2 hours
11. What: Cultural Understanding		
事前学修	Student Preparation: Read assigned materials on the importance of cultural understanding in foreign language education.	2 hours
事後学修	Homework: Reflect on the role of culture in language learning. Discuss how cultural understanding can be integrated into FLE methodologies.	2 hours
12. How: CBT & CLIL		
事前学修	Student Preparation: Read assigned materials on Culture-Based Teaching (CBT) and its connection to CLIL.	2 hours
事後学修	Homework: Design a lesson plan segment that integrates cultural content into a CLIL lesson. Specify the content area, the target language skills, and the cultural elements that will be addressed.	2 hours
13. Case Study: Storycorps (Part 1)		
事前学修	Student Preparation: Explore the StoryCorps project and its potential for promoting intercultural understanding and language learning.	2 hours
事後学修	Homework: Analyze StoryCorps as a pedagogical tool. Discuss its potential for developing listening skills, promoting empathy, and fostering cultural exchange.	2 hours
14. Case Study: Storycorps (Part 2)		
事前学修	Student Preparation: If possible, create a short StoryCorps-style interview with someone from a different cultural background.	2 hours
事後学修	Homework: Reflect on your StoryCorps experience, focusing on what you learned about the interviewee's culture and how the activity impacted your own cultural understanding.	2 hours
15. Final Assessment		
事前学修	Student Preparation: Review all course materials and prepare for the final assessment (e.g., final paper, exam, or project).	2 hours
事後学修	Homework: Complete the final assessment. This could involve a comprehensive exam, a research paper on a specific FLE methodology, or a project that integrates various concepts learned throughout the course.	2 hours

試験等
Students will be assessed based on their weekly participation in discussions, written reflections and their independent research paper and presentation on GCED.
試験のフィードバックの方法
Feedback will be ongoing through out the semester and in Week 16.
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
Teacher will provide materials. No textbook needed.
オフィスアワー
Office hours will be announced at the first meeting.
連絡先
fast@m.ndsu.ac.jp
留意事項
This is an English only course. Students will be expected to read native level academic texts and discuss them in class .

国際コミュニケーション特論IIIB				単位数	2単位
授業コード	M2435	科目ナンバリング		開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	Thomas Fast				
時間割備考					
授業形態（主）	1 講義				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	国際コミュニケーション				
本授業の概要					
This course will introduce the concept of global citizenship and global citizenship education (GCED). Students will learn what it means to be “global-minded” as well as what global and local issues we face (e.g. climate change, poverty, immigration, gender equity, population decline, etc). Students will watch videos, read articles and share opinions with the objective of developing concern and compassion. This year’s theme will be education. In particular, we will investigate GCED for: Intercultural Understanding, Peace & Diplomacy, Equity & Social Justice, Cultural Appreciation (food, music, film, art, etc).					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	Students are familiar with the recommended Global Citizenship Education (GCED) methodologies in practice today.			知識・技能／思考・判断・表現力	
2	Students understand the theories behind GCED methodologies adn how to apply them to a classroom setting.			知識・技能／思考・判断・表現力	
3	Students are able to select GCED methods for their own current or future learning situations.			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	Weekly written reflections and discussions 60%			1／2	
2	Written investigation of GCED methodologies 20%			1／2／3	
3	GCED Methodology Presentation 20%			1／2／3	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業		English			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. Introduction: FLE Methodologies II					
事前学修	Student Prep: Reflect on previously learned FLE methodologies. Consider how they intersect with global citizenship education. Read introductory materials on GCE and its connection to FLE.			2 hours	
事後学修	Homework: Write a short reflection paper outlining your current understanding of the relationship between FLE methodologies and GCE. What are the key connections and potential challenges?			2 hours	
2. Teaching English in English					
事前学修	Student Prep: Research the benefits and challenges of teaching English in English programs.			2 hours	
事後学修	Homework: Analyze the potential impact of EMI on both language acquisition and the development of global citizenship competencies. Consider equity and access issues.			2 hours	
3. Methodologies: Inquiry-based, Student-Centered Learning					
事前学修	Student Prep: Read assigned materials on inquiry-based learning and student-centered learning methodologies. Consider how these approaches can be implemented in FLE classrooms to promote GCE.			2 hours	
事後学修	Homework: Design a lesson plan or activity that utilizes inquiry-based and student-centered learning principles to address a specific global issue within an FLE context.			2 hours	
4. Case Study: World Heritage (Part 1)					
事前学修	Student Prep: Research the concept of World Heritage and its connection to cultural preservation and global understanding.			2 hours	
事後学修	Homework: Analyze the World Heritage program as a tool for GCE. Discuss its potential for fostering respect for cultural diversity and promoting intercultural dialogue.			2 hours	
5. Case Study: World Heritage (Part 2)					
事前学修	Student Prep: Choose a specific World Heritage site. Research its history, cultural significance, and current challenges.			2 hours	
事後学修	Homework: Develop a lesson plan or activity that uses the chosen World Heritage site as a context for teaching global citizenship concepts through a foreign language.			2 hours	

6. What: Teaching Global Skills		
事前学修	Student Prep: Research key global skills (critical thinking, collaboration, intercultural communication, problem-solving, etc.) and their relevance to GCE.	2 hours
事後学修	Homework: Develop a framework for integrating global skills into FLE instruction. Provide specific examples of how these skills can be taught and assessed.	2 hours
7. How: Global Ed		
事前学修	Student Prep: Explore various pedagogical approaches to global education (project-based learning, service learning, simulations, etc.).	2 hours
事後学修	Homework: Design a project-based learning activity that addresses a global issue and promotes the development of global skills through foreign language learning.	2 hours
8. Case Study: Theory of Knowledge (TOK) (Part 1)		
事前学修	Student Prep: Research the IB Theory of Knowledge (TOK) program and its focus on critical thinking and epistemology.	2 hours
事後学修	Homework: Analyze the TOK program as a model for developing critical thinking skills in a global context. Discuss its strengths and limitations, and consider its applicability to FLE.	2 hours
9. Case Study: Theory of Knowledge (TOK) (Part 2)		
事前学修	Student Prep: Consider how TOK principles can be adapted for use in different educational settings and age groups within FLE.	2 hours
事後学修	Homework: Develop a lesson or activity inspired by TOK that could be used to promote critical thinking about global issues in a foreign language classroom.	2 hours
10. Presenting FLE Independent Research		
事前学修	Student Prep: Review best practices for presenting research findings in the field of FLE and GCE.	2 hours
事後学修	Homework: Develop a presentation outline for a research project related to one of the methodologies or case studies discussed in the course	2 hours
11. What: Digital Skills		
事前学修	Student Prep: Explore the role of digital skills in promoting global collaboration and communication in FLE.	2 hours
事後学修	Homework: Discuss the ethical considerations of using digital technologies in GCE, including issues of digital access, privacy, and online safety within a foreign language learning environment.	2 hours
12. How: COIL (Collaborative Online International Learning)		
事前学修	Student Prep: Research the principles and practices of COIL.	2 hours
事後学修	Homework: Design a COIL project that connects students from different cultural backgrounds to collaborate on a global issue through the target foreign language.	2 hours
13. Case Study: Story Circles (Part 1)		
事前学修	Student Prep: Research the use of story circles as a tool for intercultural dialogue and understanding.	2 hours
事後学修	Homework: Analyze the potential of story circles for promoting empathy, building relationships, and fostering a sense of global community in the context of FLE.	2 hours
14. Case Study: Story Circles (Part 2)		
事前学修	Student Prep: If possible, participate in or facilitate a story circle activity.	2 hours
事後学修	Homework: Write a reflective report on your story circle experience, focusing on its impact on your understanding of global citizenship and intercultural communication within the context of foreign language learning.	2 hours
15. Summary and Final Assessment		
事前学修	Student Prep: Review all course materials and reflect on the key concepts and methodologies covered.	2 hours
事後学修	Homework: Prepare for the final assessment (e.g., final paper, exam, or project) which will likely synthesize the various components of the course. This could involve a comprehensive analysis of a specific global issue, a comparative study of different FLE methodologies, or the development of a comprehensive GCE-integrated FLE curriculum.	2 hours

国際コミュニケーション演習A			単位数	2単位
授業コード	M2450	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	Thomas Fast			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
この授業は、異文化理解と国際コミュニケーションに関するテーマに関し、社会学の手法を用いて研究を遂行するための基礎を修得することを目的とする。社会学の中で用いられる調査方法を把握し、具体的な研究計画を立案し、実施に向けた作業を行う。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	研究テーマを設定し、調査計画を立案・実施するために必要なスキルを修得することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2				
3				
4				
5				知識・技能
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業での発表（20%）			1
2	タームペーパー（80%）			1
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
			English	
授業予定一覧			事前・事後学修内容と時間	
1. Introduction				
事前学修	Student Preparation: Read assigned introductory texts on research design and methodologies. Reflect on your own research interests and potential research areas.			2 hours
事後学修	Homework: Write a short reflection paper outlining your research interests and potential research areas, explaining why you find them compelling and any initial thoughts on how you might approach researching them.			2 hours
2. Research Methodology				
事前学修	Student Preparation: Review assigned readings on different research methodologies (qualitative, quantitative, mixed methods). Consider which methodologies might be appropriate for your research interests.			2 hours
事後学修	Homework: Develop a comparative analysis of at least three different research methodologies, outlining their strengths, weaknesses, and suitability for different types of research questions.			2 hours
Participatory Observation				
事前学修	Student Preparation: Read assigned materials on participatory observation techniques, including ethical considerations and practical strategies.			2 hours
事後学修	Homework: Design a mini-research project that would utilize participatory observation. Outline the research question, the setting, your role as a participant observer, and how you would record your observations.			2 hours
4. Field Note Techniques				
事前学修	Student Preparation: Review best practices for taking effective field notes, including descriptive writing, reflective notes, and coding.			2 hours
事後学修	Homework: Practice taking field notes by observing a public space or event. Focus on detailed descriptions and reflective insights.			2 hours
5. Photographic Observation				
事前学修	Student Preparation: Explore the use of photography as a research method. Consider its strengths, limitations, and ethical implications.			2 hours
事後学修	Homework: Conduct a small photographic observation exercise related to your research interest. Write an analysis of the images, connecting them to potential research themes.			2 hours

6. Interview Techniques		
事前学修	Student Preparation: Study different interview techniques (structured, semi-structured, unstructured) and practice developing effective interview questions.	2 hours
事後学修	Homework: Develop an interview guide with 10-15 questions related to your research interest. Explain your rationale for choosing each question and the type of information you hope to gather.	2 hours
7. Use of Media		
事前学修	Student Preparation: Consider the various ways media (audio, video, digital) can be used in research, including data collection, analysis, and presentation.	2 hours
事後学修	Homework: Explore a research study that effectively used media. Analyze how media was integrated into the research process and its impact on the findings.	2 hours
8. Ethical Issues in Research and Survey		
事前学修	Student Preparation: Thoroughly review ethical guidelines for research involving human subjects, including informed consent, confidentiality, and data security.	2 hours
事後学修	Homework: Develop a hypothetical research scenario and identify potential ethical challenges. Outline how you would address these challenges to ensure ethical research practices.	2 hours
9. Planning a Research Project		
事前学修	Student Preparation: Review the key components of a research proposal, including research questions, methodology, timeline, and budget.	2 hours
事後学修	Homework: Begin drafting a preliminary research proposal outline for your chosen research area.	2 hours
10. Site Selection		
事前学修	Student Preparation: Consider the factors involved in selecting appropriate research sites, including accessibility, feasibility, and relevance to the research question.	2 hours
事後学修	Homework: Identify at least three potential research sites for your proposed project and justify your choices, considering the advantages and disadvantages of each.	2 hours
11. Selection of Research Subjects and Approach		
事前学修	Student Preparation: Review different sampling methods and consider how you will recruit participants for your research.	2 hours
事後学修	Homework: Develop a sampling plan for your research project, outlining the target population, sampling method, sample size, and recruitment strategies.	2 hours
12. Preparation of Letter of Intent and Consent Form		
事前学修	Student Preparation: Study examples of letters of intent and informed consent forms. Understand the legal and ethical requirements for these documents.	2 hours
事後学修	Homework: Draft a letter of intent and informed consent form for your research project, ensuring it addresses all ethical considerations and institutional requirements.	2 hours
13. Planning and Conducting the Preliminary Survey		
事前学修	Student Preparation: Review best practices for designing and administering surveys, including questionnaire development, pilot testing, and data analysis.	2 hours
事後学修	Homework: Develop a preliminary survey instrument for your research project and pilot test it with a small group. Revise the survey based on feedback.	2 hours
14. Completion of Research Plan		
事前学修	Student Preparation: Integrate feedback from the preliminary survey and refine your research plan, addressing any remaining methodological or logistical issues.	2 hours
事後学修	Homework: Finalize your research plan, incorporating all feedback and revisions. Ensure it is a comprehensive and detailed guide for your research project.	2 hours
15. Summary		
事前学修	Student Preparation: Reflect on the research process and the knowledge and skills you have gained throughout the course.	2 hours
事後学修	Homework: Write a reflective essay summarizing your learning experience in the course, highlighting key takeaways and how you anticipate applying this knowledge to your future research endeavors.	2 hours

国際コミュニケーション演習A			単位数	2単位
授業コード	M2451	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第 1 期
担当者氏名	桑山 敬己			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
受講生は修士論文作成に向けて文献調査と現地調査（フィールドワーク）を行い、教室で進捗状況を報告する。教員はそれに対して適切なアドバイスを与えるとともに、可能ならばミ全体で現地調査を行う。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	修士論文作成のための知識と技法を身につけることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力
2	設定したテーマについて自ら調べることができる。			主体性
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	期末レポート（70パーセント）			1
2	授業での発表（30パーセント）			2
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
第1週 導入				
事前学修	進捗状況を報告できるように準備すること。			2時間
事後学修	授業中の助言と議論に基づいて資料等を整理する。			2時間
第2週 学術論文の技法 1				
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。			2時間
事後学修	授業中の助言と議論に基づいて資料等を整理する。			2時間
第3週 学術論文の技法 2				
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。			2時間
事後学修	授業中の助言と議論に基づいて資料等を整理する。			2時間
第4週 英語論文の技法 1				
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。			2時間
事後学修	授業中の助言と議論に基づいて資料等を整理する。			2時間
第5週 英語論文の技法 2				
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。			2時間
事後学修	授業中の助言と議論に基づいて資料等を整理する。			2時間

第6週 受講生の発表 1-A		
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。	2時間
事後学修	授業中の助言と議論に基づいて資料等を整理する。	2時間
第7週 受講生の発表 2-A		
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。	2時間
事後学修	授業中の助言と議論に基づいて資料等を整理する。	2時間
第8週 受講生の発表 3-A		
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。	2時間
事後学修	授業中の助言と議論に基づいて資料等を整理する。	2時間
第9週 学会発表の技法		
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。	2時間
事後学修	授業中の助言と議論に基づいて資料等を整理する。	2時間
第10週 フィールドワークの技法 1		
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。	2時間
事後学修	授業中の助言と議論に基づいて資料等を整理する。	2時間
第11週 フィールドワークの技法 2		
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。	2時間
事後学修	授業中の助言と議論に基づいて資料等を整理する。	2時間
第12週 受講生の発表 1-B		
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。	2時間
事後学修	授業中の助言と議論に基づいて資料等を整理する。	2時間
第13週 受講生の発表 2-B		
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。	2時間
事後学修	授業中の助言と議論に基づいて資料等を整理する。	2時間
第14週 受講生の発表 3-B		
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。	2時間
事後学修	授業中の助言と議論に基づいて資料等を整理する。	2時間
第15週 全体討論		
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。	2時間
事後学修	授業中の助言と議論に基づいて資料等を整理する。	2時間

試験等
修士論文に向けた期末レポートの提出
試験のフィードバックの方法
期末レポートにコメントをつけて返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
日英の文献を随時指定
オフィスアワー
後日発表
連絡先
後日発表
留意事項
調査研究の進展とともに修士論文のテーマは少しずつ変わっていくので、教員とよくコミュニケーションをとること。

国際コミュニケーション演習A			単位数	2単位
授業コード	M2452	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	植野 貴志子			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
言語、コミュニケーション、文化・社会をテーマとした文献を購読し、理論的枠組みと論点を整理する。さらに既存の理論的枠組みを批判的に検討したうえで、その展開を試みる。データセッションを行いながら個人研究を進め、査読付学術誌に投稿できるレベルの論文作成を目指す。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	語用論、社会言語学、関連分野の理論的枠組みを理解し、建設的な批判が行える。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	研究テーマについて適切な方法論を設定することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	独自のデータ分析、考察を行い、査読付学術誌に投稿できるレベルの論文に仕上げるができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	発表 30%			1
2	ディスカッションへの貢献 30%			1
3	期末レポート 40%			1／2／3
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
イントロダクション				
事前学修	自身の研究テーマについて簡潔に説明できるよう準備する。			2時間
事後学修	教科書のイントロダクションを読んで重要事項をまとめる。			2時間
Pragmatics and philosophy (1)				
事前学修	Pragmatics and philosophy の前半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。			2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。			2時間
Pragmatics and philosophy (2)				
事前学修	Pragmatics and philosophy の後半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。			2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。			2時間
Pragmatics and psychology (1)				
事前学修	Pragmatics and psychologyの前半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。			2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。			2時間
Pragmatics and psychology (2)				
事前学修	Pragmatics and psychologyの後半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。			2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。			2時間

データセッション（1）		
事前学修	研究データの概要を整理し、プレゼンテーション用のスライドや資料を作成する。議論したい点（疑問や課題）をリストアップする。	2時間
事後学修	データセッションで得たフィードバックを整理する。フィードバックをもとにデータの整理方法や分析手法を見直す。	2時間
データセッション（2）		
事前学修	研究データの概要を整理し、プレゼンテーション用のスライドや資料を作成する。議論したい点（疑問や課題）をリストアップする。	2時間
事後学修	データセッションで得たフィードバックを整理する。フィードバックをもとにデータの整理方法や分析手法を見直す。	2時間
Pragmatics and human ethology（1）		
事前学修	Pragmatics and human ethology の前半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
Pragmatics and human ethology（2）		
事前学修	Pragmatics and human ethology の後半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
Pragmatics and ethonology（1）		
事前学修	Pragmatics and ethonologyの前半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
Pragmatics and ethonology（2）		
事前学修	Pragmatics and ethonologyの後半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
データセッション（3）		
事前学修	研究データの概要を整理し、プレゼンテーション用のスライドや資料を作成する。議論したい点（疑問や課題）をリストアップする。	2時間
事後学修	データセッションで得たフィードバックを整理する。フィードバックをもとにデータの整理方法や分析手法を見直す。	2時間
データセッション（4）		
事前学修	研究データの概要を整理し、プレゼンテーション用のスライドや資料を作成する。議論したい点（疑問や課題）をリストアップする。	2時間
事後学修	データセッションで得たフィードバックを整理する。フィードバックをもとにデータの整理方法や分析手法を見直す。	2時間
振り返り・まとめ		
事前学修	授業で扱った章を振り返り、疑問点をまとめておく。	2時間
事後学修	授業中のディスカッション内容を振り返り、重要なポイントを整理する。	2時間
個人面談		
事前学修	自身の研究の進捗状況、疑問点、課題、今後の計画をまとめておく。	2時間
事後学修	フィードバックに基づき、研究方法や計画の見直しをする。	2時間

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
授業内あるいは面談でのフィードバック
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> Senft, Gunter. 2014. Understanding Pragmatics. Routledge. (ISBN: 978-1444180305) その他、必要な資料は授業で配布する。 <参考書> Haugh, Michael, Dániel Z. Kádár, Marina Terkourafi (eds.) 2021. The Cambridge Handbook of Sociopragmatics. Cambridge University Press. (ISBN: 978-1108954105)
オフィスアワー
火曜日4限 質問や面談のアPOINTメントは随時メールで受け付ける。
連絡先
uenok@m.ndsu.ac.jp
留意事項

国際コミュニケーション演習B				単位数	2単位
授業コード	M2455	科目ナンバリング		開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	Thomas Fast				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）	2 演習				
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	国際コミュニケーション				
本授業の概要					
この授業は、異文化理解と国際コミュニケーションに関するテーマに関し、社会学の手法を用いて研究を遂行するための基礎を修得することを目的とする。社会学の中で用いられる調査方法を把握し、具体的な研究計画を立案し、実施に向けた作業を行う。					
アクティブラーニングの実施内容		調査学習			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	研究テーマを設定し、調査計画を立案・実施するために必要なスキルを修得することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2					
3					
4					
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	授業での発表（20%）			1	
2	タームペーパー（80%）			1	
3					
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の授業への活用方法					
日本語以外の言語による授業		English			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. Drafting Findings: Answering Research Q 1					
事前学修	Student Preparation: Review your data and analysis related to Research Question 1. Outline the key findings and supporting evidence.			2 hours	
事後学修	Homework: Draft the section of your thesis that presents the findings for Research Question 1. Focus on clear and concise writing, using tables and figures where appropriate.			2 hours	
2. Drafting Findings: Answering Research Q 2					
事前学修	Student Preparation: Review your data and analysis related to Research Question 2. Outline the key findings and supporting evidence.			2 hours	
事後学修	Homework: Draft the section of your thesis that presents the findings for Research Question 2. Maintain consistency in style and format with the previous section.			2 hours	
3. Drafting Findings: Answering Research Q 3					
事前学修	Student Preparation: Review your data and analysis related to Research Question 3. Outline the key findings and supporting evidence.			2 hours	
事後学修	Homework: Draft the section of your thesis that presents the findings for Research Question 3. Ensure a logical flow and connection between the findings of each research question.			2 hours	
4. Drafting Findings: Chapter Conclusion					
事前学修	Student Preparation: Review all the findings presented in the chapter. Identify any overarching themes or patterns.			2 hours	
事後学修	Homework: Draft a concluding section for the findings chapter that summarizes the key findings for each research question and synthesizes them into a cohesive narrative.			2 hours	
5. Drafting Conclusion: Summarizing the Research					
事前学修	Student Preparation: Review your entire thesis draft, focusing on the research questions, methodology, and key findings.			2 hours	
事後学修	Homework: Draft the first part of your thesis conclusion, summarizing the research conducted, including the purpose of the study, the methods used, and the most significant findings.			2 hours	

6. Drafting Conclusion: Implications		
事前学修	Student Preparation: Consider the broader implications of your research findings. How do they contribute to the existing body of knowledge? What are the practical implications of your findings?	2 hours
事後学修	Homework: Draft the section of your conclusion that discusses the implications of your research. Be specific and avoid overstating the significance of your findings.	2 hours
7. Drafting Conclusion: Limitations, Suggestions for Further Study, Conclusion		
事前学修	Student Preparation: Critically evaluate the limitations of your research. Identify areas for future research.	2 hours
事後学修	Homework: Draft the final section of your conclusion, addressing the limitations of your study, suggesting directions for future research, and offering a final concluding statement that summarizes the key contributions of your thesis.	2 hours
8. Finalizing Table of Contents and Abstract		
事前学修	Student Preparation: Review the formatting guidelines for your institution. Ensure your table of contents and abstract are accurate and adhere to the guidelines.	2 hours
事後学修	Homework: Finalize your table of contents and abstract. The abstract should be a concise summary of your entire thesis.	2 hours
9. Finalizing thesis draft and turn in		
事前学修	Student Preparation: Proofread your entire thesis draft carefully, paying attention to grammar, spelling, punctuation, and style.	2 hours
事後学修	Homework: Submit your final thesis draft.	2 hours
10. Revising thesis		
事前学修	Student Preparation: Review feedback received on your submitted draft.	2 hours
事後学修	Homework: Begin revising your thesis based on the feedback received.	2 hours
11. Revising thesis		
事前学修	Student Preparation: Continue working on revisions based on feedback.	2 hours
事後学修	Homework: Continue revising your thesis, focusing on addressing the most significant feedback first.	2 hours
12. Revising thesis		
事前学修	Student Preparation: Review any remaining feedback and make final revisions.	2 hours
事後学修	Homework: Finalize revisions and prepare your thesis for the oral defense.	2 hours
13. Oral Defense Preparation: Slides		
事前学修	Student Preparation: Prepare a presentation summarizing your thesis, highlighting the key research questions, methodology, findings, and conclusions.	2 hours
事後学修	Homework: Create your presentation slides, ensuring they are clear, concise, and visually appealing. Practice your presentation.	2 hours
14. Interview Practice: Presentation		
事前学修	Student Preparation: Practice delivering your presentation and answering potential questions from the committee.	2 hours
事後学修	Homework: Conduct a practice presentation with peers or mentors, soliciting feedback on your delivery and content.	2 hours
15. Interview Practice: Q&A		
事前学修	Student Preparation: Anticipate potential questions from the committee and prepare thoughtful responses.	2 hours
事後学修	Homework: Practice answering questions related to your thesis. Focus on articulating your research clearly and confidently.	2 hours

国際コミュニケーション演習B			単位数	2単位
授業コード	M2456	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	桑山 敬己			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
演習Aに続き、受講生は修士論文作成に向けて文献調査と現地調査（フィールドワーク）を行い、教室で進捗状況を報告する。晩秋には論文の草稿を仕上げるようにする。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	修士論文作成のための知識と技法を身につけることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力
2	設定したテーマについて自ら調べることができる。			主体性
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	進捗状況の報告（50パーセント）			1
2	修士論文の草稿の提出（50パーセント）			2
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
第1週 導入				
事前学修	進捗状況を報告できるようにする。			2時間
事後学修	授業中の助言や討論に基づいて資料等を整理する。			2時間
第2週 学術論文の形式				
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。			2時間
事後学修	授業中の助言や討論に基づいて資料等を整理する。			2時間
第3週 英語論文の形式				
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。			2時間
事後学修	授業中の助言や討論に基づいて資料等を整理する。			2時間
第4週 受講生の発表 1-A				
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。			2時間
事後学修	授業中の助言や討論に基づいて資料等を整理する。			2時間
第5週 受講生の発表 2-A				
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。			2時間
事後学修	授業中の助言や討論に基づいて資料等を整理する。			2時間

第6週 受講生の発表 3-A		
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。	2時間
事後学修	授業中の助言や討論に基づいて資料等を整理する。	2時間
第7週 エスノグラフィを書く 1		
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。	2時間
事後学修	授業中の助言や討論に基づいて資料等を整理する。	2時間
第8週 エスノグラフィを書く 2		
事前学修	指定の文献を読んだり発表の準備をする。	2時間
事後学修	授業中の助言や討論に基づいて資料等を整理する。	2時間
第9週 修士論文の草稿の発表と講評 1-A		
事前学修	発表の準備をする。	2時間
事後学修	授業中の助言や討論に基づいて資料等を整理する。	2時間
第10週 修士論文の草稿の発表と講評 2-A		
事前学修	発表の準備をする。	2時間
事後学修	授業中の助言や討論に基づいて資料等を整理する。	2時間
第11週 修士論文の草稿の発表と講評 3-A		
事前学修	発表の準備をする。	2時間
事後学修	授業中の助言や討論に基づいて資料等を整理する。	2時間
第12週 修士論文の草稿の発表と講評 1-B		
事前学修	発表の準備をする。	2時間
事後学修	授業中の助言や討論に基づいて資料等を整理する。	2時間
第13週 修士論文の草稿の発表と講評 2-B		
事前学修	発表の準備をする。	2時間
事後学修	授業中の助言や討論に基づいて資料等を整理する。	2時間
第14週 修士論文の草稿の発表と講評 3-B		
事前学修	発表の準備をする。	2時間
事後学修	授業中の助言や討論に基づいて資料等を整理する。	2時間
第15週 学会発表の可能性を探る		
事前学修	指定の文献を読む。	2時間
事後学修	授業中の助言や討論に基づいて資料等を整理する。	2時間

試験等
修士論文の草稿を提出する。
試験のフィードバックの方法
修士論文の草稿にコメントをつけて返却する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
日英の文献を随時指定
オフィスアワー
後日発表
連絡先
後日発表
留意事項
調査研究の進展とともに修士論文のテーマは少しずつ変わっていくので、教員とよくコミュニケーションをとること。

国際コミュニケーション演習B			単位数	2単位
授業コード	M2457	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	植野 貴志子			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	国際コミュニケーション			
本授業の概要				
言語と文化・社会をテーマとした文献を購読し、理論的枠組みと論点を整理する。さらに既存の理論的枠組みを批判的に検討したうえで、その展開を試みる。データセッションを行いながら個人研究を進め、査読付学術誌に投稿できるレベルの論文作成を目指す。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	語用論、社会言語学、関連分野の理論的枠組みを理解し、建設的な批判が行える。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	研究テーマについて適切な方法論を設定することができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	独自のデータ分析、考察を行い、査読付学術誌に投稿できるレベルの論文に仕上げるができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	発表 30%		1	
2	ディスカッションへの貢献 30%		1	
3	期末レポート 40%		1／2／3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
イントロダクション				
事前学修	自身の研究テーマについて簡潔に説明できるよう準備する。			2時間
事後学修	教科書のイントロダクションを読んで重要事項をまとめる。			2時間
Pragmatics and sociology (1)				
事前学修	Pragmatics and sociologyの前半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。			2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。			2時間
Pragmatics and sociology (2)				
事前学修	Pragmatics and sociologyの後半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。			2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。			2時間
Pragmatics and politics (1)				
事前学修	Pragmatics and politicsの前半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。			2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。			2時間
Pragmatics and politics (2)				
事前学修	Pragmatics and politicsの後半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。			2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。			2時間

データセッション（1）		
事前学修	研究データの概要を整理し、プレゼンテーション用のスライドや資料を作成する。議論したい点（疑問や課題）をリストアップする。	2時間
事後学修	データセッションで得たフィードバックをまとめる。データの整理方法や分析手法を見直す。	2時間
データセッション（2）		
事前学修	研究データの概要を整理し、プレゼンテーション用のスライドや資料を作成する。議論したい点（疑問や課題）をリストアップする。	2時間
事後学修	データセッションで得たフィードバックをまとめる。データの整理方法や分析手法を見直す。	2時間
Understanding pragmatics（1）		
事前学修	Understanding pragmaticsの前半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
Understanding pragmatics（2）		
事前学修	Understanding pragmaticsの後半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
Emancipatory pragmatics（1）		
事前学修	Emancipatory pragmaticsの前半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
Emancipatory pragmatics（2）		
事前学修	Emancipatory pragmaticsの後半を精読する。発表担当者は要点をまとめたハンドアウトを作成する。	2時間
事後学修	重要な語彙やキーワードを復習する。授業での議論を振り返り、自分の考えを整理する。	2時間
データセッション（3）		
事前学修	研究データの概要を整理し、プレゼンテーション用のスライドや資料を作成する。議論したい点（疑問や課題）をリストアップする。	2時間
事後学修	データセッションで得たフィードバックをまとめる。データの整理方法や分析手法を見直す。	2時間
データセッション（4）		
事前学修	研究データの概要を整理し、プレゼンテーション用のスライドや資料を作成する。議論したい点（疑問や課題）をリストアップする。	2時間
事後学修	データセッションで得たフィードバックをまとめる。データの整理方法や分析手法を見直す。	2時間
個人面談		
事前学修	自身の研究の進捗状況、疑問点、課題、今後の計画をまとめておく。	2時間
事後学修	フィードバックに基づき、研究方法や計画の見直しをする。	2時間
個人面談		
事前学修	自身の研究の進捗状況、疑問点、課題、今後の計画をまとめておく。	2時間
事後学修	フィードバックに基づき、研究方法や計画の見直しをする。	2時間

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
授業内あるいは面談でのフィードバック
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<必携書> Senft, Gunter. 2014. Understanding Pragmatics. Routledge. (ISBN: 978-1444180305) その他、必要な資料は授業で配布する。 <参考書> Haugh, Michael, Dániel Z. Kádár, Marina Terkourafi (eds.) 2021. The Cambridge Handbook of Sociopragmatics. Cambridge University Press. (ISBN: 978-1108954105)
オフィスアワー
火曜日4限 質問や面談のアPOINTメントは随時メールで受け付ける。
連絡先
uenok@m.ndsu.ac.jp
留意事項

翻訳学特論A		単位数	2単位	
授業コード	M2460	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第 1 期
担当者氏名	木津 弥佳			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	実践翻訳			
本授業の概要				
本講では、英語と日本語の言語構造的・文体的違いと、それぞれの文化・社会的背景を認識し、英語から日本語、または日本語から英語へ翻訳する際に、何を考慮する必要があるのかを考察する。また、翻訳スキルや翻訳ストラテジーのみならず、それらがどのような翻訳理論を基盤としているのかを学び、自身の翻訳を客観的に評価し、翻訳プロセスを論理的に説明できる力を養う。具体的なトピックとして、句や文レベルとテキスト間の等価性や指標性、語用論的・文化的意味などについて考える。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標		対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）		
1	英日・日英翻訳の高度な能力を身につける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
2	英語と日本語の言語的・文化社会的違いを認識して、翻訳に反映させることができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
3	翻訳の際の課題を系統立てて説明できる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性		
4				
5				
成績評価の基準		対応する到達目標の番号		
1	Presentation 20%	1／2／3		
2	Translation 30%	1／2／3		
3	Commentary 50%	1／2／3		
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1 Orientation				
事前学修	テキストを読み、翻訳学について考えをまとめておく。	2 時間		
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間		
2 Introduction to translation studies				
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間		
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間		
3 Propositional meaning				
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間		
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間		
4 Presupposed meaning, expressive meaning				
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間		
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間		
5 Indexical meaning				
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間		
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間		

6 Symbolic, allusive, associative and collocative meaning		
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間
7 Textual meaning, figurative meaning		
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間
8 Speech acts, ambiguity and vagueness		
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間
9 How to write a commentary		
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間
10 Narrative discourse		
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間
11 Procedural, expository, descriptive, hortatory, repartee discourse, etc.		
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間
12 Seven types of translation technique		
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間
13 Omission in translation, Information addition/deletion and offsetting, etc.		
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間
14 Summary		
事前学修	これまでの内容を振り返り、疑問点を洗い出す。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間
15 Peer review		
事前学修	翻訳を批評する。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間

試験等
レポート
試験のフィードバックの方法
口頭と書面によるフィードバック
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考書> Hasegawa, Yoko (2012) The Routledge Course in Japanese Translation. Routledge. 鳥飼玖美子（編著）(2013) 『よくわかる翻訳通訳学』 ミネルヴァ書房. Baker, Mona (1992) In Other Words: A Coursebook on Translation. Routledge. Munday, Jeremy (2008) Introducing Translation Studies: Theories and Applications [2nd edition]. Routledge.
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修登録を希望する人は、登録前に担当教員まで申し出てください。

翻訳学特論B			単位数	2単位
授業コード	M2462	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	木津 弥佳			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	実践翻訳			
本授業の概要				
1 期に引き続き、英語と日本語の言語構造的・文体的違いと、それぞれの文化・社会的背景を認識し、英語から日本語、または日本語から英語へ翻訳する際に、何を考慮する必要があるのかを考察する。また、翻訳スキルや翻訳ストラテジーのみならず、それらがどのような翻訳理論を基盤としているのかを学び、自身の翻訳を客観的に評価し、翻訳プロセスを論理的に説明できる力を養う。特に、これまで提唱されてきた翻訳理論を概観し、より理論的基盤を固めて自身の翻訳作品を論じることができるようになる。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	英日・日英翻訳のさらに高度な能力を身につける。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	英語と日本語の言語的・文化社会的違いを認識して、より正確に翻訳に反映させることができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	翻訳の際の課題を翻訳理論に基づいて説明できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	Presentation 20%		1／2／3	
2	Translation 30%		1／2／3	
3	Commentary 50%		1／2／3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1 Introduction				
事前学修	1 期の復習をしておく。			2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。			2 時間
2 Pre-modern translation theories 1				
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。			2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。			2 時間
3 Pre-modern translation theories 2				
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。			2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。			2 時間
4 Mid-twentieth century translation theories 1				
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。			2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。			2 時間
5 Mid-twentieth century translation theories 2				
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。			2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。			2 時間

6 Skopos theory 1		
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間
7 Skopos theory 2		
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間
8 Negative analytic 1		
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間
9 Negative analytic 2		
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間
10 Recent approaches 1		
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間
11 Recent approaches 2		
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間
12 The translation situation 1		
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間
13 The translation situation 2		
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間
14 Reading the source text		
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間
15 Translation evaluation		
事前学修	テキストを読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに、課題の解答を省察する。	2 時間

試験等
レポート
試験のフィードバックの方法
口頭と書面によるフィードバック
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考書> Hasegawa, Yoko (2012) The Routledge Course in Japanese Translation. Routledge. 鳥飼玖美子（編著）(2013) 『よくわかる翻訳通訳学』ミネルヴァ書房. Baker, Mona (1992) In Other Words: A Coursebook on Translation. Routledge. Munday, Jeremy (2008) Introducing Translation Studies: Theories and Applications [2nd edition]. Routledge.
オフィスアワー
By appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp
留意事項
履修登録を希望する人は、登録前に担当教員まで申し出てください。

翻訳教育特論A			単位数	2単位
授業コード	M2465	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	行木 瑛子			
時間割備考	オンライン			
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	実践翻訳			
本授業の概要				
本授業では、年少者向け教育・初等教育・中等教育・高等教育・翻訳者養成コースなど、様々な教育分野での翻訳の活用について考察する。授業では、国内外の事例を扱った論文（英語・日本語）を読み込み、ディスカッションを通して、翻訳教育に関する知見を深める。また、学んだ知見をもとに、自らが現在または将来、家庭・地域・教育等でどう翻訳教育を活用していけるかを考え、発表し、レポートにまとめる。				
本授業は、外国語教育に興味のある者のみならず、翻訳通訳者養成に携わりたい者、子どものバイリンガル教育に興味のある者や、在住外国人のサポートを考えている者などにとっても、どう自分の環境に翻訳を応用していくかを考えるきっかけとなるものである。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	様々な場面でどう翻訳教育が使用されているかについて理解できる。			知識・技能
2	現在・将来の自分の生活に翻訳教育をどう応用していけるかを具体的に説明できる。			思考・判断・表現力／主体性
3	英語・日本語の文献を読み込み、その内容を正確に理解した上で、内容について自分の意見を述べることができる。			思考・判断・表現力
4	複数の文献を読み込んだうえで、それに基づき発表・レポートの作成ができる。			思考・判断・表現力／主体性
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業時の議論への参加（40%）			1／3
2	課題（20%）			1／3
3	発表（20%）			2／4
4	レポート（20%）			2／4
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1. 自己紹介・クラスの流れ・翻訳教育に関するブレインストーミング				
事前学修	なし			0時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。			2時間
2. 翻訳教育の理論的背景（バイリンガリズム・マルチリンガリズム）				
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。			2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。			2時間
3. 幼児教育での翻訳の活用				
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。			2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。			2時間
4. 初等教育での翻訳の活用				
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。			2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。			2時間
5 複言語教育と翻訳の活用				
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。			2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。			2時間

6. 中等教育での翻訳の活用①：文法訳読法とその批判		
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。	2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。	2時間
7. 中等教育での翻訳の活用②：英語教育での実践例		
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。	2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。	2時間
8. 高等教育での翻訳の活用①：日本語教育での実践例		
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。	2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。	2時間
9. 高等教育での翻訳の利用②：文芸翻訳とクリエイティブライティング		
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。	2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。	2時間
10. 高等教育での翻訳の活用③：視聴覚翻訳		
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。	2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。	2時間
11. 翻訳の専門教育：学部向けコース		
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。	2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。	2時間
12. 翻訳の専門教育：院生向けコース		
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。	2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。	2時間
13. 手話と翻訳教育		
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。	2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。	2時間
14. 翻訳担当教師向けのトレーニング		
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。	2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。	2時間
15. 発表とまとめ		
事前学修	発表の準備をする。	2時間
事後学修	発表内容をレポートにまとめる。	2時間

試験等 レポート
試験のフィードバックの方法 レポートについては教員のコメントをメール等で送付する。
必携書（教科書販売） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外） 書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
<参考書> Laviosa, S., & Davies, M. G. (eds.). (2020). The Routledge handbook of translation and education. Routledge. Venuti, L., (ed.). (2016). Teaching translation: Programs, courses, pedagogies. Routledge. 野原 佳代子 (2014) 『ディスカッションから学ぶ翻訳学』三省堂.
オフィスアワー Zoomでの授業後に質問を受け付ける。また、メールでも随時質問を受け付ける。
連絡先 g-eiko@okinawa-u.ac.jp
留意事項 シラバスは、履修学生の興味分野によって変更する可能性がある。

翻訳教育特論B			単位数	2単位
授業コード	M2467	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	行木 瑛子			
時間割備考	オンライン			
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	実践翻訳			
本授業の概要				
前期に引き続き、本授業では、年少者向け教育・初等教育・中等教育・高等教育・翻訳者養成コースなど、様々な教育分野での翻訳の活用について考察する。第2期では、前期で学んだ内容を深く掘り下げるために、『トランスランゲージング・クラスルーム：子どもたちの複数言語を活用した学校教師の実践』（オフィーリア・ガルシア他著、明石書店）を輪読する予定である。また、自らが現在または将来、家庭・地域・教育等でどう翻訳教育を実践するかを模擬授業の形で実践し、その振り返りをレポートにまとめる。				
本授業は、外国語教育に興味のある者のみならず、将来翻訳通訳者養成に携わりたい者、子どものバイリンガル教育に興味のある者や、在住外国人のサポートを考えている者などにとっても、どう自分の環境に翻訳を応用していくかを考えるきっかけとなるものである。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	様々な場面でどう翻訳教育が使用されているかについて理解できる。			知識・技能
2	現在・将来の自分の生活で翻訳教育を実践できるようになる。			思考・判断・表現力／主体性
3	英語・日本語の文献を読み込み、その内容を正確に理解した上で、内容について自分の意見を述べることができる。			思考・判断・表現力
4	複数の文献を読み込んだうえで、それに基づき発表・レポートの作成ができる。			思考・判断・表現力／主体性
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業時の議論への参加（40%）			1／3
2	課題（20%）			1／3
3	発表（20%）			2／4
4	レポート（20%）			2／4
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1. 自己紹介・クラスの流れ・前期の復習				
事前学修	なし			0時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。			2時間
2. トランスランゲージング・クラスルーム-教室環境と目的				
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。			2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。			2時間
3. 言語実践とトランスランゲージング・クラスルームの枠組み				
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。			2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。			2時間
4. 生徒のダイナミック・バイリンガリズムを記録する				
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。			2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。			2時間
5 トランスランゲージング・スタンス				
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。			2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。			2時間

6. 指導におけるトランスランゲージング・デザイン		
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。	2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。	2時間
7. アセスメントにおけるトランスランゲージング・デザイン		
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。	2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。	2時間
8. トランスランゲージング教育論の実践		
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。	2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。	2時間
9. トランスランゲージング・クラスルームと指導のスタンダード		
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。	2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。	2時間
10. トランスランゲージング・クラスルームにおける教科学習内容に関わるリテラシー		
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。	2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。	2時間
11. トランスランゲージング・クラスルームにおけるバイリテラシー		
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。	2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。	2時間
12. 社会的情動面におけるウェルビーイングと社会的公正		
事前学修	課題の文献を読み込み、質問を考える。発表担当者は発表を準備する。	2時間
事後学修	授業でのディスカッションを振り返って、自分の意見をまとめる。	2時間
13. 模擬授業の教案指導		
事前学修	模擬授業の教案を作成する。	2時間
事後学修	クラスでのディスカッションを振り返って、教案を修正する。	2時間
14. 模擬授業の発表と振り返り		
事前学修	模擬授業の準備をする。	2時間
事後学修	模擬授業を振り返って、良かった点や改善点をまとめる。	2時間
15. クラスのまとめ		
事前学修	クラスで学んだことについて自分の意見をまとめる。	2時間
事後学修	模擬授業の振り返りをレポートにまとめる。	2時間

試験等
レポート
試験のフィードバックの方法
レポートについては教員のコメントをメール等で送付する。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィーリア・ガルシア他（著）佐野愛子・中島和子（監訳）『トランスランゲージング・クラスルーム-子どもたちの複数言語を活用した学校教師の実践』明石書店 Laviosa, S., & Davies, M. G. (eds.) (2020) The Routledge handbook of translation and education. Routledge.
オフィスアワー
Zoomでの授業後に質問を受け付ける。また、メールでも随時質問を受け付ける。
連絡先
g-eiko@okinawa-u.ac.jp
留意事項
シラバスは、履修学生の興味分野によって変更する可能性がある。

翻訳実践演習ⅠA				単位数	2単位
授業コード	M2470	科目ナンバリング		開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	小笠原 ヒロ子				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	実践翻訳				
本授業の概要					
このコースの目的は、学生が英語のテキストを適切な日本語に翻訳ができる高度な翻訳スキルを取得、開拓していける指導することである。このコースでは、フィクション、ノンフィクションを織り交ぜながら、様々なテキストを取り扱っていく。このコースでは英語のテキストを、異なる文法、慣用表現、発話法などにとらわれずに、自然な日本語へと翻訳する訓練をする					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	英語のテキストの形式、内容、意味を評価し、それを適切な日本語に翻訳する方法を考えることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	翻訳に必要な資料、辞書等を有効に活用して、翻訳することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	原稿の英語のテキストのスタイルに合致した日本語を選び、またオリジナルの英語の内容、ニュアンスを正確に理解した上で、作者が意図した通りの日本語に翻訳ができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	自分が翻訳した際に心掛けたことを文書でも、口頭でも説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	注釈付きニュース記事の翻訳 30%			1／2／3／4	
2	注釈付き解説エッセイの翻訳 30%			1／2／3／4	
3	注釈付きショートストーリーの翻訳 40%			1／2／3／4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
講師は、学術論文、医学論文、体験書、報告書、マニュアル、パンフレット、カタログ、法律文書等の翻訳経験がある。その経験を通して、読者にわかりやすい翻訳はどのように心掛けたらよいのかを学生に伝える					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. オリエンテーション： 基本的な英語の文章を日本語に翻訳する					
事前学修	課題を毎週だすので、学生はテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中は翻訳した内容についてのディスカッションを行う。				1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。				1.5時間/週
2. 英語による対話を日本語に翻訳する： 英語のジャーナリズム、内容、様式、スタイル					
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。				1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。				1.5時間/週
3. 英語による対話を日本語に翻訳する： 英語のジャーナリズム、内容、様式、スタイル					
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。				1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。				1.5時間/週
4. 日本語と英語の分法の違い考察 英語のジャーナリズム、内容、様式、スタイル					
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。				1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。				1.5時間/週
5. 注釈付き翻訳の評価 1. 提出とディスカッション					
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を提出しておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。				1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。				1.5時間/週

6. 日本語と英語の分法の違い考察 英語の解説文、内容、様式、スタイル		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週
7. 翻訳テクニックの習得 文章、英語の解説文、内容、様式、スタイル		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週
8. 翻訳テクニックの習得 文章、英語の解説文、内容、様式、スタイル		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週
9. 翻訳テクニックの習得 長文、英語の解説文、内容、様式、スタイル		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週
10. 注釈付き翻訳の評価 2. 提出とディスカッション		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を提出しておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週
11. 翻訳テクニックの習得 長文、文学の翻訳、内容、様式、スタイル		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週
12. 翻訳テクニックの習得 対話、文学の翻訳、内容、様式、スタイル		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週
13. 翻訳テクニックの習得 詳細説明、文学の翻訳、内容、様式、スタイル		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週
14. 翻訳テクニックの習得 ジャンル、文学の翻訳、内容、様式、スタイル		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週
15. 注釈付き翻訳の評価 3. 提出とディスカッション		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を提出しておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週

試験等
学生個々に翻訳のフィードバックを行う
試験のフィードバックの方法
学生の課題提出したものに対して、定期的にコメントを付けてフィードバックを行う。 口頭の説明が必要な場合は、応じる。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。授業に合わせた資料を講師から配布する。
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける
連絡先
m8022@m.ndsu.ac.jp
留意事項
この授業は学生は積極的に参加することを求める。課題は事前に完了させ、授業中は、ディスカッションにより、活発な意見交換を行う。

翻訳実践演習IB				単位数	2単位
授業コード	M2472	科目ナンバリング		開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	小笠原 ヒロ子				
時間割備考					
授業形態（主）	2 演習				
授業形態（副）					
担当形態	単独				
研究分野（大学院）	実践翻訳				
本授業の概要					
このコースの目的は、学生が英語のテキストを適切な日本語に翻訳ができる高度な翻訳スキルを取得、開拓していける指導することである。このコースでは、フィクション、ノンフィクションを織り交ぜながら、様々なテキストを取り扱っていく。このコースでは英語のテキストを、異なる文法、慣用表現、発話法などにとらわれずに、自然な日本語へと翻訳する訓練をする。					
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション			
到達目標				対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	英語のテキストの形式、内容、意味を評価し、それを適切な日本語に翻訳する方法を考えることができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	翻訳に必要な資料、辞書等を有効に活用して、翻訳することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	原稿の英語のテキストのスタイルに合致した日本語を選び、またオリジナルの英語の内容、ニュアンスを正確に理解した上で、作者が意図した通りの日本語に翻訳ができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4	自分が翻訳した際に心掛けたことを文書でも、口頭でも説明できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
5					
成績評価の基準				対応する到達目標の番号	
1	注釈付きニュース記事の翻訳 30%			1／2／3／4	
2	注釈付き解説エッセイの翻訳 30%			1／2／3／4	
3	注釈付きショートストーリーの翻訳 40%			1／2／3／4	
4					
5					
実務経験のある教員による授業科目		実務あり			
実務経験の授業への活用方法					
講師は、学術論文、医学論文、体験書、報告書、マニュアル、パンフレット、カタログ、法律文書等の翻訳経験がある。その経験を通して、読者にわかりやすい翻訳はどのように心掛けたらよいのかを学生に伝える。					
日本語以外の言語による授業					
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間			
1. オリエンテーション： 基本的な英語の文章を日本語に翻訳する					
事前学修	課題を毎週だすので、学生はテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中は翻訳した内容についてのディスカッションを行う。			1.5-2.5時間/週	
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。			1.5時間/週	
2. 英語による対話を日本語に翻訳する： 英語のジャーナリズム、内容、様式、スタイル					
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。			1.5-2.5時間/週	
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。			1.5時間/週	
3. 英語による対話を日本語に翻訳する： 英語のジャーナリズム、内容、様式、スタイル					
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。			1.5-2.5時間/週	
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。			1.5時間/週	
4. 日本語と英語の分法の違い考察 英語のジャーナリズム、内容、様式、スタイル					
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。			1.5-2.5時間/週	
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。			1.5時間/週	
5. 注釈付き翻訳の評価 1. 提出とディスカッション					
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を提出しておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。			1.5-2.5時間/週	
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。			1.5時間/週	

6. 日本語と英語の分法の違い考察 英語の解説文、内容、様式、スタイル		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週
7. 翻訳テクニックの習得 文章、英語の解説文、内容、様式、スタイル		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週
8. 翻訳テクニックの習得 文章、英語の解説文、内容、様式、スタイル		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週
9. 翻訳テクニックの習得 長文、英語の解説文、内容、様式、スタイル		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週
10. 注釈付き翻訳の評価 2. 提出とディスカッション		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を提出しておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週
11. 翻訳テクニックの習得 長文、文学の翻訳、内容、様式、スタイル		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週
12. 翻訳テクニックの習得 対話、文学の翻訳、内容、様式、スタイル		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週
13. 翻訳テクニックの習得 詳細説明、文学の翻訳、内容、様式、スタイル		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週
14. 翻訳テクニックの習得 ジャンル、文学の翻訳、内容、様式、スタイル		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を完成させておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週
15. 注釈付き翻訳の評価 3. 提出とディスカッション		
事前学修	学生は課題のテキストを読み、理解し、授業前までに課題を提出しておく。授業中に翻訳した内容についてのディスカッションができるようにしておく。	1.5-2.5時間/週
事後学修	授業中に訳したテキストをもう一度授業後に訳す。	1.5時間/週

試験等
学生個々に翻訳のフィードバックを行う。
試験のフィードバックの方法
学生の課題提出したものに対して、定期的にコメントを付けてフィードバックを行う。 口頭の説明が必要な場合は、応じる。
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。授業に合わせた資料を講師から配布する。
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
なし。
オフィスアワー
授業終了後に教室で質問を受け付ける。
連絡先
m8022@m.ndsu.ac.jp
留意事項
この授業は学生は積極的に参加することを求める。課題は事前に完了させ、授業中は、ディスカッションにより、活発な意見交換を行う。

翻訳学演習A			単位数	2単位
授業コード	M2480	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	木津 弥佳			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	実践翻訳			
本授業の概要				
本演習では、翻訳とコメンタリーから構成される修士論文を執筆するために必要な知識と方法論を学ぶ。また、理論的・実践的研究に基づいた修士論文執筆にも対応できるような先行研究を洗い出し、関連する文献を批判的に読み、建設的な意見を述べるための訓練を行う。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	翻訳学関連の修士論文の課題設定を適切に行うことができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	必要な方法論を理解し、実践することができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	英語・日本語で書かれた先行研究を的確に理解し、批判的に読むことができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	発言等による授業への貢献 20%		1／2／3	
2	発表 30%		1／2／3	
3	論文 50%		1／2／3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1. Introduction				
事前学修	修士論文で扱う作品・マテリアルを選定する。			2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			2 時間
2. Research questions and ethics				
事前学修	指定された読み物を読み、レジュメにまとめる。			2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			2 時間
3. Literature review 1				
事前学修	指定された読み物を読み、レジュメにまとめる。			2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			2 時間
4. Literature review 2				
事前学修	指定された読み物を読み、レジュメにまとめる。			2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			2 時間
5. Literature review 3				
事前学修	指定された読み物を読み、レジュメにまとめる。			2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			2 時間

6. Literature review 4		
事前学修	指定された読み物を読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間
7. Literature review 5		
事前学修	指定された読み物を読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間
8. Literature review 6		
事前学修	指定された読み物を読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間
9. Summarizing previous research 1		
事前学修	これまでの先行研究をまとめ、課題を洗い出す。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間
10. Summarizing previous research 2		
事前学修	これまでの先行研究をまとめ、課題を洗い出す。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間
11. Research methods 1		
事前学修	指定された読み物を読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間
12. Research methods 2		
事前学修	指定された読み物を読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間
13. Research quality: validity and reliability		
事前学修	指定された読み物を読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間
14. Research quality: generalizability		
事前学修	指定された読み物を読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間
15. Summary		
事前学修	指定された読み物を読み、レジュメにまとめる。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間

翻訳学演習B			単位数	2単位
授業コード	M2482	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	木津 弥佳			
時間割備考				
授業形態（主）	2 演習			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	実践翻訳			
本授業の概要				
本演習では、翻訳学関連の修士論文の執筆と発表・ディスカッションの際に必要な英語理解力と運用能力をさらに高め、受講者の扱う研究課題について深く理解し、わかりやすく説明する訓練を行う。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	先行研究の内容を深く理解し、適切にまとめることができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	翻訳作品を客観的に評価し、建設的に批判することができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	深い英語理解力を持ち、高度な英語運用力を用いて発表と質疑応答ができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	発言等による授業への貢献 20%		1／2／3	
2	発表 30%		1／2／3	
3	論文 50%		1／2／3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1. Summarizing backgrounds				
事前学修	修士論文のテーマの背景となる内容をまとめる。			2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			2 時間
2. Translation process research				
事前学修	論文中の翻訳課程に関する内容をまとめる。			2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			2 時間
3. Reviewing translation 1				
事前学修	自身が訳した作品・マテリアルを批評する。			2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			2 時間
4. Reviewing translation 2				
事前学修	自身が訳した作品・マテリアルを批評する。			2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			2 時間
5. Reviewing translation 3				
事前学修	自身が訳した作品・マテリアルを批評する。			2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。			2 時間

6. Presentation 1		
事前学修	中間報告発表の準備をする。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間
7. Reviewing translation 4		
事前学修	自身が訳した作品・マテリアルを批評する。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間
8. Reviewing translation 5		
事前学修	自身が訳した作品・マテリアルを批評する。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間
9. Reviewing translation 6		
事前学修	自身が訳した作品・マテリアルを批評する。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間
10. Analysis: linguistic viewpoints		
事前学修	言語理論に基づいて翻訳過程を分析する。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間
11. Analysis: contextual viewpoints		
事前学修	テキストジャンルやコンテキストに基づいて自身の作品・マテリアルを分析する。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間
12. Analysis: theoretical viewpoints		
事前学修	翻訳理論の観点から、自身の作品・マテリアルを分析する。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間
13. Analysis: editorial viewpoints		
事前学修	これまでの成果を論文にまとめ、体裁を整える。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間
14. Presentation 2		
事前学修	最終発表の準備をする。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間
15. Summary and feedback		
事前学修	発表内容の振り返りを行う。	2 時間
事後学修	授業中のフィードバックをもとに自身の研究を進める。	2 時間

聖書学特論IA			単位数	2単位
授業コード	M2510	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	山根 道公			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	専門関連科目			
本授業の概要				
日本の近現代文学にはキリスト教的、聖書的影響のある作品が多くあるが、そうした中から戦後の小説および詩を取り上げ、キリスト教的思想や聖書の象徴表現などに注目して分析、読解を行い、作品研究を試みる。さらにそうした作品研究を踏まえて、作家研究にも取り組む。				
アクティブラーニングの実施内容				
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	キリスト教的、聖書の主題をもつ日本近現代文学の作品を分析する方法を修得できる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2				
3				
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業内活動30%			1
2	研究レポート70%			1
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1. 導入				
事前学修	事前にシラバスを読んでおくこと。 主体的に問題意識をもって自分の取り上げたい作品を考えておくこと。			2時間
事後学修	授業の内容をまとめて理解を深め、自分の作品分析や考察などの内容に修正を加えるなど、復習をすること。			2時間。
2. 日本近現代文学におけるキリスト教の影響のある作品・作家の概説。				
事前学修	事前に示した作品を読んでおくこと。 主体的に問題意識をもって作品分析と考察をしておくこと。			2時間
事後学修	授業の内容をまとめて理解を深め、自分の作品分析や考察などの内容に修正を加えるなど、復習をすること。			2時間
3. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その1				
事前学修	事前に示した作品を読んでおくこと。 主体的に問題意識をもって作品分析と考察をしておくこと。			2時間
事後学修	授業の内容をまとめて理解を深め、自分の作品分析や考察などの内容に修正を加えるなど、復習をすること。			2時間
4. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その2				
事前学修	事前に示した作品を読んでおくこと。 主体的に問題意識をもって作品分析と考察をしておくこと。			2時間
事後学修	授業の内容をまとめて理解を深め、自分の作品分析や考察などの内容に修正を加えるなど、復習をすること。			2時間
5. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その3				
事前学修	事前に示した作品を読んでおくこと。 主体的に問題意識をもって作品分析と考察をしておくこと。			2時間
事後学修	授業の内容をまとめて理解を深め、自分の作品分析や考察などの内容に修正を加えるなど、復習をすること。			2時間

6. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その4		
事前学修	事前に示した作品を読んでおくこと。 主体的に問題意識をもって作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	授業の内容をまとめて理解を深め、自分の作品分析や考察などの内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
7. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その5		
事前学修	事前に示した作品を読んでおくこと。 主体的に問題意識をもって作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	授業の内容をまとめて理解を深め、自分の作品分析や考察などの内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
8. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その6		
事前学修	事前に示した作品を読んでおくこと。 主体的に問題意識をもって作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	授業の内容をまとめて理解を深め、自分の作品分析や考察などの内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
9. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その7		
事前学修	事前に示した作品を読んでおくこと。 主体的に問題意識をもって作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	授業の内容をまとめて理解を深め、自分の作品分析や考察などの内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
10. 具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。その8		
事前学修	事前に示した作品を読んでおくこと。 主体的に問題意識をもって作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	授業の内容をまとめて理解を深め、自分の作品分析や考察などの内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
11. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その1		
事前学修	事前に示した作品を読んでおくこと。 主体的に問題意識をもって作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	授業の内容をまとめて理解を深め、自分の作品分析や考察などの内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
12. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その2		
事前学修	事前に示した作品を読んでおくこと。 主体的に問題意識をもって作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	授業の内容をまとめて理解を深め、自分の作品分析や考察などの内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
13. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その3		
事前学修	事前に示した作品を読んでおくこと。 主体的に問題意識をもって作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	授業の内容をまとめて理解を深め、自分の作品分析や考察などの内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
14. 作品研究を踏まえて、作家研究を行う。その4		
事前学修	事前に示した作品を読んでおくこと。 主体的に問題意識をもって作品分析と考察をしておくこと。	2時間
事後学修	授業の内容をまとめて理解を深め、自分の作品分析や考察などの内容に修正を加えるなど、復習をすること。	2時間
15. まとめ		
事前学修	これまでの授業全体を振り返って主体的に問題意識をもって理解を深め疑問などまとめておくこと。	2時間
事後学修	授業全体の学びを振り返り、レポートの課題と結びつく問題を整理すること。	2時間

試験等
レポート提出（課題の内容は授業内で指示）
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
授業中に指示する。
オフィスアワー
オフィスタワーは、金曜日12：30-13：00 質問は随時、授業の後、また電子メールで受け付ける。
連絡先
yamane@m.ndsu.ac.jp
留意事項
講義で取り上げる作品および指示する参考文献を予め読んでおくこと。

キリスト教思想特論IIA			単位数	2単位
授業コード	M2530	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第1期
担当者氏名	袴田 渉			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	関連			
本授業の概要				
古代地中海世界に生まれ、ヨーロッパを経由して近代日本の文化・制度形成に深甚な影響を与えたキリスト教思想の歴史を学ぶ。第1期はキリスト教思想の基礎となる聖書の読解を中心に、必要に応じて近代日本や英米文学にも言及する。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	キリスト教思想の重要な概念と学説を理解し、説明することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	キリスト教思想史の研究方法論を身につけ、自身の研究課題に応用することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	キリスト教思想史研究の現代的意義を理解し、研究を通して得られた知見を社会に還元し他者に貢献する意欲をもつことができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業への参加態度（30%）			1／2／3
2	リアクションペーパー（20%）			1／2／3
3	期末レポート（50%）			1／2／3
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1 イン트로ダクション				
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。			2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。			2時間
2 キリスト教の歴史的背景				
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。			2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。			2時間
3 聖書読解（1） 天地創造				
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。			2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。			2時間
4 聖書読解（2） 二つの創造				
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。			2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。			2時間
5 聖書読解（3） アブラハムの物語				
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。			2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。			2時間

6 聖書読解 (4) イスラエルの誕生		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
7 聖書読解 (5) モーセと出エジプト		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
8 聖書読解 (6) 十戒		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
9 旧約から新約へ		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
10 新約聖書の全体像		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
11 聖書読解 (7) イエスの物語		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
12 聖書読解 (8) 主の祈り		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
13 聖書読解 (9) 教会の誕生		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
14 聖書読解 (10) 黙示録		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
15 まとめ		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き／／日本聖書協会／3600／9784820213451／冊子版
〈参考書〉 ・上智大学中世思想研究所監訳『キリスト教史』1～3, 平凡社ライブラリー, 1996年. ・K・リーゼンフーバー『西洋古代・中世哲学史』平凡社ライブラリー, 2000年.
オフィスアワー
メールでの回答のほか、授業終了後に教室で質問を受け付ける
連絡先
hakamada@nanzan-u. ac. jp
留意事項
本授業では、教員による講義に終始せず、場合により演習形式も取り入れる。

キリスト教思想特論IIB			単位数	2単位
授業コード	M2535	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	袴田 渉			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）	2 演習			
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	関連			
本授業の概要				
古代地中海世界に生まれ、ヨーロッパを経由して近代日本の文化・制度形成に深甚な影響を与えたキリスト教思想の歴史を学ぶ。第2期は古代末期から中世に到るキリスト教思想史の展開を、具体的な歴史的事象とそれがもたらした文化をめぐって考察し、必要に応じて近代日本や英米文学にも言及する。				
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	キリスト教思想の重要な概念と学説を理解し、説明することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
2	キリスト教思想史の研究方法論を身につけ、自身の研究課題に応用することができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
3	キリスト教思想史研究の現代的意義を理解し、研究を通して得られた知見を社会に還元し他者に貢献する意欲をもつことができる。			知識・技能／思考・判断・表現力／主体性
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業への参加態度（30%）			1／2／3
2	リアクションペーパー（20%）			1／2／3
3	期末レポート（50%）			1／2／3
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1 イントロダクション				
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。			2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。			2時間
2 迫害を越えて：ローマ帝国とキリスト教				
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。			2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。			2時間
3 三位一体論				
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。			2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。			2時間
4 キリスト論				
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。			2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。			2時間
5 修道制の誕生				
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。			2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。			2時間

6 修道規則の成立		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
7 西方の修道制		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
8 国教化と東西分離		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
9 シスマと十字軍		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
10 キリスト教文化（1） クリスマス		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
11 修道院の時代		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
12 ローマ・カトリック教会		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
13 宗教改革		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
14 キリスト教文化（2） 聖人崇敬		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間
15 まとめ		
事前学修	事前に聖書や本授業の参考書を図書館等を利用して読み、授業内容への理解を深める。	2時間
事後学修	授業で学んだことを咀嚼し、各人の研究テーマに即して考察を深める。	2時間

試験等
期末レポート
試験のフィードバックの方法
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
聖書 聖書協会共同訳 旧約聖書続編付き／／日本聖書協会／3600／9784820213451／冊子版
〈参考書〉 ・上智大学中世思想研究所監訳『キリスト教史』1～3, 平凡社ライブラリー, 1996年. ・K・リーゼンフーバー『西洋古代・中世哲学史』平凡社ライブラリー, 2000年.
オフィスアワー
メールでの回答のほか、授業終了後に教室で質問を受け付ける
連絡先
hakamada@nanzan-u. ac. jp
留意事項
本授業では、教員による講義に終始せず、場合により演習形式も取り入れる。

英語科教育特論A			単位数	2単位
授業コード	M2540	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第 1 期
担当者氏名	伊藤 豊美			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	専門関連科目			
本授業の概要				
本授業では、英語教育学の基礎基本を修得し、より高度な内容を研究する。特に、文部科学省学習指導要領に基づく具体的な指導技術を高めるとともに、言語（母語並びに外国語）習得の過程や学習者研究の在り方について考察する。				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （ 1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	英語科教育の背景となる専門知識を修得する。		知識・技能／思考・判断・表現力	
2	実際の教室における高い指導技術を身に付ける。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	英語そのものの高い運用能力を身に付ける。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業時の発表（40％）		1／2／3	
2	レポートの内容（30％）		1／2／3	
3	指導技術の修得状況（30％）		1／2／3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目		実務あり		
実務経験の授業への活用方法				
県立高当学校15年、岡山県及び岡山市教育委員会にて指導主事等で10年、大学教育20年の英語教育実践及び研究の実務経験を学生の英語教育に活かしていく。				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1 オリエンテーション				
事前学修	テキストの予習 レポート作成			約120分
事後学修	学修内容の復習			約120分
2 国際社会における英語：国際化と英語教育、国際語としての英語の将来				
事前学修	テキストの予習 レポート作成			約120分
事後学修	学修内容の復習			約120分
3 世界の英語教育事情：ヨーロッパ諸国、アジア・アフリカ等の外国語教育				
事前学修	テキストの予習 レポート作成			約120分
事後学修	学修内容の復習			約120分
4 日本の英語教育の史的展望：(1) 江戸末期～大正				
事前学修	テキストの予習 レポート作成			約120分
事後学修	学修内容の復習			約120分
5 日本の英語教育の史的展望：(2) 昭和～平成				
事前学修	テキストの予習 レポート作成			約120分
事後学修	学修内容の復習			約120分

6 日本の英語教育の史的展望：(3) 令和～ 新しい時代に向けて		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分
7 英語教授法の変遷 (1) The Grammar Translation Method & Direct Methods		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分
8 英語教授法の変遷 (2) The Oral Method		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分
9 英語教授法の変遷 (3) The Oral Approach		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分
10 英語教授法の変遷 (4) The Cognitive Approach		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分
11 英語教授法の変遷 (5) Communicative Language Teaching (CLT)		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分
12 英語科教育教材論 (1) 言語材料についての知識 英語の音声、英語の文法、英語の語彙、英語の文章構成		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分
13 英語科教育教材論 (2) 言語活動のための教材開発 リスニング教材、スピーキング教材、リーディング教材、ライティング教材		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分
14 英語科教育教材論 (3) 異文化理解のための教材開発 英語教育と異文化理解、異文化理解のための教材開発		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分
15 英語科教育教材論 (4) 誤答分析からの知見 中間言語、学習者の言語発達過程、誤答の収集と分類		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分

試験等
定期試験
試験のフィードバックの方法
後日、解答を掲示する
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
片山嘉雄 編『新・英語科教育の研究』（大修館書店） 文部科学省『中学校学習指導要領解説外国語編』、『高等学校学習指導要領解説外国語編』 その他、授業時に適宜資料を配付する。
オフィスアワー
質問は随時受け付ける。
連絡先
itoh@m.ndsu.ac.jp
留意事項
一部、演習形式を取り入れて、英語技能そのものの訓練も実施する。

英語科教育特論B			単位数	2単位
授業コード	M2545	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第2期
担当者氏名	伊藤 豊美			
時間割備考				
授業形態（主）	1 講義			
授業形態（副）				
担当形態	単独			
研究分野（大学院）	専門関連科目			
本授業の概要				
本授業では、英語教育学の基礎基本を修得し、より高度な内容を研究する。特に、文部科学省学習指導要領に基づく具体的な指導技術を高めるとともに、言語（母語並びに外国語）習得の過程や学習者研究の在り方について考察する。				
アクティブラーニングの実施内容		問題解決型学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	英語科教育の背景となる専門知識を修得する。		知識・技能／思考・判断・表現力	
2	実際の教室における高い指導技術を身に付ける。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	英語そのものの高い運用能力を身に付ける。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	授業時の発表（40％）		1／2	
2	レポートの内容（30％）		1／2／3	
3	指導技術の修得状況（30％）		1／2／3	
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目		実務あり		
実務経験の授業への活用方法				
県立高当学校15年、岡山県及び岡山市教育委員会にて指導主事等で10年、大学教育20年の英語教育実践及び研究の実務経験を学生の英語教育に活かしていく。				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
1 英語科教育方法論（1） コミュニケーションをめぐる考察 コミュニケーションの特質、コミュニケーション能力の定義				
事前学修	テキストの予習 レポ作成作成		約120分	
事後学修	学修内容の復習		約120分	
2 英語科教育方法論（2） 4 技能の実践的指導法①リスニング				
事前学修	テキストの予習 レポ作成作成		約120分	
事後学修	学修内容の復習		約120分	
3 英語科教育方法論（3） 4 技能の実践的指導法②スピーキング				
事前学修	テキストの予習 レポ作成作成		約120分	
事後学修	学修内容の復習		約120分	
4 英語科教育方法論（4） 4 技能の実践的指導法③リーディング				
事前学修	テキストの予習 レポ作成作成		約120分	
事後学修	学修内容の復習		約120分	
5 英語科教育方法論（5） 4 技能の実践的指導法④ライティング				
事前学修	テキストの予習 レポ作成作成		約120分	
事後学修	学修内容の復習		約120分	

6 英語科教育方法論（6）異文化理解教育への対応		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分
7 学習指導要領（1）歴史的展望-学習指導要領の変遷		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分
8 学習指導要領（2）作成過程と内容構成		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分
9 学習指導要領（3）中学校における学習指導要領のねらい		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分
10 学習指導要領（4）高等学校における学習指導要領のねらい		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分
11 学習指導要領（5）学習指導要領と検定教科書 学習指導要領の法的意義、教科書検定のプロセス		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分
12 英語科教育評価論（1）英語科教育とテスト 英語教育における測定・評価の意義と目的、評価の種類と方法		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分
13 英語科教育評価論（2）各種テスト例と作成上の留意点		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分
14 英語科教育学習者論 学習者の実態と要因		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分
15 英語科教育教師論 英語教員のミニマム・エッセンシャルと研修		
事前学修	テキストの予習 レポート作成	約120分
事後学修	学修内容の復習	約120分

試験等
定期試験
試験のフィードバックの方法
後日、解答を掲示する
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
片山嘉雄 編『新・英語科教育の研究』（大修館書店） 文部科学省『中学校学習指導要領解説外国語編』、『高等学校学習指導要領解説外国語編』 その他、授業時に適宜資料を配付する。
オフィスアワー
随時質問を受け付ける。
連絡先
itoh@m.ndsu.ac.jp
留意事項
一部、演習形式を取り入れて、英語技能そのものの訓練も実施する。

英語英米文学専攻インターンシップ事前事後指導		単位数	1単位
授業コード	M2550	科目ナンバリング	開講年度学期2025年度第1期、2025年度第2期
担当者氏名	木津 弥佳、植野 貴志子、松井 かや、Thomas Fast、山口 麻衣子		
時間割備考	2025年度入学から、2024年度以前入学生も履修可 事前選考あり		
授業形態（主）	1 講義		
授業形態（副）	2 演習		
担当形態	複数		
研究分野（大学院）	専門関連科目		
本授業の概要			
本授業は、「英語英米文学専攻インターンシップA, B, C」科目を履修する学生の教育的効果を高めるため、就業体験において必要となるさまざまな準備と就業体験の省察を行う。事前指導では、実習生として企業で就業する意識を高めるとともに、派遣先の事業内容の事前調査を実施し、ビジネスマナー、コンプライアンス教育などの知識を身につける。また、英語を運用する業務に就くための通訳・翻訳のトレーニングも実施する。事後指導では、就業体験を経て得られた成果と課題等を振り返るとともに、将来の具体的なキャリアデザインを描く機会を設ける。			
アクティブラーニングの実施内容		グループ・ディスカッション	
到達目標		対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/2 思考・判断・表現力/3 主体性）	
1	就業体験に必要な知識と実践スキルを身につける。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	就業体験の成果を確認し、自身の体験を多面的に評価・言語化することができる。	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	仕事で使うことのできる基本的な通訳・翻訳スキルを身につける	知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4			
5			
成績評価の基準		対応する到達目標の番号	
1	授業への取り組み20%	1／2／3	
2	課題・企業研究レポート30%	1／2／3	
3	成果発表50%	1／2	
4			
5			
実務経験のある教員による授業科目		実務あり	
実務経験の授業への活用方法			
講義を担当する外部講師とキャリアサポートセンター職員はキャリア支援に携わっており、その経験を活かしてインターンシップ中の働き方に関する指導を行う。			
日本語以外の言語による授業			
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間	
1 オリエンテーション：キャリアについて考える（キャリアサポートセンター・担当教員）			
事前学修	インターンシップに参加する意義を再考し、疑問点を洗い出しておく。	2時間	
事後学修	授業で学んだ内容を振り返り、課題に取り組む。	2時間	
2 企業で働くとは？（外部講師）			
事前学修	提示された課題に取り組む。	2 時間	
事後学修	授業で学んだ内容を振り返り、課題に取り組む。	2 時間	
4 ビジネスマナー1（外部講師）			
事前学修	提示された課題に取り組む。	2 時間	
事後学修	授業で学んだ内容を振り返り、課題に取り組む。	2 時間	
4 ビジネスマナー2（外部講師）			
事前学修	提示された課題に取り組む。	2 時間	
事後学修	授業で学んだ内容を振り返り、課題に取り組む。	2 時間	
5 コンプライアンスとは？（外部講師）			
事前学修	提示された課題に取り組む。	2 時間	
事後学修	授業で学んだ内容を振り返り、課題に取り組む。	2 時間	

6 企業研究成果の提出と注意事項（担当教員）		
事前学修	企業研究を行う。	2 時間
事後学修	授業で学んだ内容を振り返り、課題に取り組む。	2 時間
7 通訳・翻訳スキル 1（担当教員）		
事前学修	提示された課題に取り組む。	2 時間
事後学修	授業で学んだ内容を振り返り、課題に取り組む。	2 時間
8 通訳・翻訳スキル 2（担当教員）		
事前学修	提示された課題に取り組む。	2 時間
事後学修	授業で学んだ内容を振り返り、課題に取り組む。	2 時間
9 振り返り（担当教員）		
事前学修	就業体験を振り返り、ディスカッションの準備をする。	2 時間
事後学修	授業の内容を振り返り、課題に取り組む。	2 時間
10 成果報告会（担当教員）		
事前学修	成果発表の準備をする。	2 時間
事後学修	発表内容をレポートにまとめる。	2 時間
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		

英語英米文学専攻インターンシップA			単位数	4単位
授業コード	M2560	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第1期、2025年度第2期
担当者氏名	木津 弥佳、植野 貴志子、松井 かや、Thomas Fast、山口 麻衣子			
時間割備考	2025年度入学から、2024年度以前入学生も履修可 事前選考あり			
授業形態（主）	3 実験・実習・実技			
授業形態（副）				
担当形態	複数			
研究分野（大学院）	専門関連科目			
本授業の概要				
本科目では、英語英米文学専攻とインターンシップ協定を締結した企業等で、長期（20日間）にわたる実習（就業体験）を行う。インターンシップは、学問的教育研究とグローバル社会での体験を結びつける機会を提供し、学生の新たな学習意欲を喚起することと、将来のキャリア形成を支援することを目的としており、企業等の現場において実務を経験することで、社会人となるための専門活用能力を高め、卒業直後から即戦力となりうる人材を養成する。また、提携校からの留学生が参加する場合は、インターンシップの場で協働する経験を通じて、互いの文化的背景や言語の違いに配慮しつつ、自身の考えを的確に表明できるグローバルなコミュニケーション能力を身につける。				
アクティブラーニングの実施内容		体験学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	企業等の就業体験において主体的に取り組み、高いコミュニケーション力を使って、連携協働できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	学問的研究を通じて学んできたことを就業体験に活かすことができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	社会で活かせる実践的・専門活用能力を身につける。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	就業体験をもとにした評価 50%		1／2／3	
2	報告書 50%		1／2／3	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧			事前・事後学修内容と時間	
派遣先企業等と連携を図り、決められた就業体験の計画に即して実施する。 実習内容の詳細については、前年度の申請時に掲示されたものを基本とする。				
事前学修				
事後学修				
事前学修				
事後学修				
事前学修				
事後学修				
事前学修				
事後学修				
事前学修				
事後学修				

事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		

試験等
報告書の提出
試験のフィードバックの方法
口頭または書面によるフィードバック
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー
by appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp（主担当教員）
留意事項
本科目への履修登録は、前年度に専攻へ申請し、派遣先が決定している学生のみ可能です。 本科目の履修に際しては、「英語英米文学専攻インターンシップ事前事後指導」も必ず履修すること

英語英米文学専攻インターンシップB			単位数	2単位
授業コード	M2565	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第1期、2025年度第2期
担当者氏名	木津 弥佳、植野 貴志子、松井 かや、Thomas Fast、山口 麻衣子			
時間割備考	2025年度入学から、2024年度以前入学生も履修可 事前選考あり			
授業形態（主）	3 実験・実習・実技			
授業形態（副）				
担当形態	複数			
研究分野（大学院）	専門関連科目			
本授業の概要				
本科目では、英語英米文学専攻とインターンシップ協定を締結した企業等で、中期（10日間）にわたる実習（就業体験）を行う。インターンシップは、学問的教育研究とグローバル社会での体験を結びつける機会を提供し、学生の新たな学習意欲を喚起することと、将来のキャリア形成を支援することを目的としており、企業等の現場において実務を経験することで、社会人となるための専門活用能力を高め、卒業直後から即戦力となりうる人材を養成する。また、提携校からの留学生が参加する場合は、インターンシップの場で協働する経験を通じて、互いの文化的背景や言語の違いに配慮しつつ、自身の考えを的確に表明できるグローバルなコミュニケーション能力を身につける。				
アクティブラーニングの実施内容		体験学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	企業等の就業体験において主体的に取り組み、高いコミュニケーション力を使って、連携協働できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	学問的研究を通じて学んできたことを就業体験に活かすことができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	社会で活かせる実践的・専門活用能力を身につける。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	就業体験をもとにした評価	50%	1／2／3	
2	報告書	50%	1／2／3	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
派遣先企業等と連携を図り、決められた就業体験の計画に即して実施する。 実習内容の詳細については、前年度の申請時に掲示されたものを基本とする。				
事前学修				
事後学修				
事前学修				
事後学修				
事前学修				
事後学修				
事前学修				
事後学修				
事前学修				
事後学修				

事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		

試験等
報告書の提出
試験のフィードバックの方法
口頭または書面によるフィードバック
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー
by appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp（主担当教員）
留意事項
本科目への履修登録は、前年度に専攻へ申請し、派遣先が決定している学生のみ可能です。 本科目の履修に際しては、「英語英米文学専攻インターンシップ事前事後指導」も必ず履修すること

英語英米文学専攻インターンシップC			単位数	1単位
授業コード	M2570	科目ナンバリング	開講年度学期	2025年度第1期、2025年度第2期
担当者氏名	木津 弥佳、植野 貴志子、松井 かや、Thomas Fast、山口 麻衣子			
時間割備考	2025年度入学から、2024年度以前入学生も履修可 事前選考あり			
授業形態（主）	3 実験・実習・実技			
授業形態（副）				
担当形態	複数			
研究分野（大学院）	専門関連科目			
本授業の概要				
本科目では、英語英文専攻とインターンシップ協定を締結した企業等で、短期（5日間）の実習（就業体験）を行う。インターンシップは、学問的教育研究とグローバル社会での体験を結びつける機会を提供し、学生の新たな学習意欲を喚起することと、将来のキャリア形成を支援することを目的としており、企業等の現場において実務を経験することで、社会人となるための専門活用能力を高め、卒業直後から即戦力となりうる人材を養成する。また、提携校からの留学生在が参加する場合は、インターンシップの場で協働する経験を通じて、互いの文化的背景や言語の違いに配慮しつつ、自身の考えを的確に表明できるグローバルなコミュニケーション能力を身につける。				
アクティブラーニングの実施内容		体験学習		
到達目標			対応するディプロマポリシー （1 知識・技能/ 2 思考・判断・表現力/ 3 主体性）	
1	企業等の就業体験において主体的に取り組み、高いコミュニケーション力を使って、連携協働できる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
2	学問的研究を通じて学んできたことを就業体験に活かすことができる。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
3	社会で活かせる実践的・専門活用能力を身につける。		知識・技能／思考・判断・表現力／主体性	
4				
5				
成績評価の基準			対応する到達目標の番号	
1	就業体験をもとにした評価 50%		1／2／3	
2	報告書 50%		1／2／3	
3				
4				
5				
実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の授業への活用方法				
日本語以外の言語による授業				
授業予定一覧		事前・事後学修内容と時間		
派遣先企業等と連携を図り、決められた就業体験の計画に即して実施する。 実習内容の詳細については、前年度の申請時に掲示されたものを基本とする。				
事前学修				
事後学修				
事前学修				
事後学修				
事前学修				
事後学修				
事前学修				
事後学修				
事前学修				
事後学修				

事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		
事前学修		
事後学修		

試験等
報告書の提出
試験のフィードバックの方法
口頭または書面によるフィードバック
必携書（教科書販売）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
必携書・参考書（教科書販売以外）
書籍名／著者／発売元出版社／価格／ISBN／媒体種別・備考
オフィスアワー
by appointment
連絡先
mikakizu@m.ndsu.ac.jp（主担当教員）
留意事項
本科目への履修登録は、前年度に専攻へ申請し、派遣先が決定している学生のみ可能です。 本科目の履修に際しては、「英語英米文学専攻インターンシップ事前事後指導」も必ず履修すること